

# 会 報

No.66 (2000年6月)

## 目 次

- ◆第23回(2000年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その2) ..... 1
- ◆サテライトシンポジウム演題応募要領について ..... 27
- ◆学会費(年度会費)納入についてのお願い ..... 27
- ◆入会申込の手続きについて ..... 27
- ◆WWWによる会員名簿調査について ..... 28
- ◆学術賞、研究助成の本学会推薦について ..... 28
- ◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ ..... 29
  - シンポジウム「分子シャペロン2000」矢原一郎先生退官記念シンポジウム ..... 29
  - IMSUT 国際シンポジウム「幹細胞生物学の展開:組織形成と再生医学の基礎」 ..... 29
  - 日本癌学会公開シンポジウム「ホルモン依存性がんと核内受容体」 ..... 29
  - 千里ライフサイエンス技術講習会 第23回「プロテオミクス解析:タンパク質の同定と構造解析」 ..... 30
  - 千里ライフサイエンス技術講習会 第24回「マイクロアレイ技術の最新動向」 ..... 30
  - シンポジウム「21世紀の結晶学—創立50周年を記念して—」 ..... 31
  - 千里ライフサイエンスセミナー「血管新生とその制御」 ..... 31
  - 千里ライフサイエンスセミナー「発生・細胞・生体工学の新展開」 ..... 32
  - 萬有創立85周年記念シンポジウム ..... 32
  - 神奈川科学技術アカデミー(KAST)教育講座 平成12年度第Ⅱ期受講生募集 ..... 33
  - フリーラジカルウィーク-2000 (Free Radical Week-2000) ..... 33
  - 第9回日本バイオイメーシング学会学術集会 ..... 34
  - 第3回酸素添加酵素国際会議「酸素と生命」 ..... 34
    - 酸素添加酵素、酸化酵素およびリピドメディエーター—
  - 構造ゲノム科学国際会議 (International Conference on Structural Genomics 2000) ..... 34
  - 岡崎国立共同研究機構統合バイオサイエンスセンター教授公募 ..... 35

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL: <http://MBSJ.biol.kobe-u.ac.jp/>

**演題申込締切日**

所定用紙による場合            2000年8月9日（水）

WWWによる場合                2000年8月23日（水）

**事前参加登録締切日**            2000年11月10日（金）

年会ホームページ：<http://mbsj.biol.kobe-u.ac.jp/annual-meet.html>

**日本分子生物学会入会申込書請求先：**

〒113-8622 文京区本駒込 5-16-9 学会センター C21  
財団法人日本学会事務センター・会員業務 日本分子生物学会 係  
TEL：(03) 5814-5810 FAX：(03) 5814-5825

URL: <http://bunshi.bcasj.or.jp/> でも入会手続きを行っていただけます。

**年会に関する問合せ先：**

第23回日本分子生物学会年会事務局  
〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル14階  
TEL：(06) 6873-2301 FAX：(06) 6873-2300  
E-mail: [bunshi23@bcasj.or.jp](mailto:bunshi23@bcasj.or.jp)

**宿泊に関する問合せ先：**

〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1-4-19 日土地堂島ビル  
JTB 国際旅行西日本営業部 第23回日本分子生物学会年会係 担当 黒岡  
TEL：(06) 6345-9515 FAX：(06) 6345-0910  
E-mail: [kokusainishi\\_ec410@kns.jtb.co.jp](mailto:kokusainishi_ec410@kns.jtb.co.jp)

## ◆第23回（2000年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2）

第23回年会は、12月13日（水）から16日（土）の4日間、神戸国際展示場、神戸国際会議場およびポートピアホテルで開催されます。年会スケジュールのあらまきは、下記の通りです。

### 一般演題

会報 No. 65で既にお知らせしましたように、一般演題は、全てポスターで行います。後記の「演題申込方法」の要領に従い、お申込み下さい。

一般演題（ポスター）発表は、初日から4日目までの4日間で、約3,000題を予定しています。ポスターのスペースは、高さ170 cm×幅135 cmを予定しています。

貼付	8：15～9：00
展示	9：00～19：00（第4日目は9：00～16：00）
説明・討論	13：00～15：30
撤去	19：00～19：30（第4日目は16：00～16：30）

### シンポジウム

組織委員会で別表のような（8～10頁）24題のシンポジウムを企画しました。シンポジウムは同時に8会場で、初日から第3日目までの16：00～19：00に行う予定です。

### ワークショップ

ワークショップは、初日から第4日目までの9：30～12：00に、別表のような（11～12頁）36テーマを予定しています。各ワークショップの世話人が一般演題の中から選考した演題の方には、ワークショップでの口頭発表をお願いする予定です。採用演題はワークショップのみの発表となります。1演題当たりの発表時間は、世話人に任せてあります。また、同時に9会場で行う予定です。なお、発表はスライドで行っていただきます（OHPもしくはパソコンを利用しての発表をご希望の方は、事前に世話人ならびに事務局にお知らせ下さい）。

### バイオテクノロジーセミナー

初日から第4日目までの13：15～15：15に行う予定です。詳細はプログラム（11月上旬発行予定）と講演要旨集（11月下旬発行予定）をご覧ください。

### サテライトシンポジウム

「遺伝子組換えとその制御」のタイトルでサテライトシンポジウムを12月11日（月）午後から12日（火）に行う予定です。口頭発表を希望される方は、27頁の演題応募要領に従ってご応募下さい。

### ミキサー

懇親会の代わりに、ポスター会場でミキサーを行います。最終日を除き、3時からビールやソフトドリンク等を用意しますので、ご利用下さい。

### ミーティング会場の提供について

日本分子生物学会年会には、毎年6,500人の研究者が全国各地から集まります。組織委員会では、分子生物関連の諸会議および委員会、小グループでの研究発表会や討論会、将来に研究班を組織するための打合せ会等の会合に部屋を提供することにいたしました。会場使用にあたっては、以下の条件に従って下さい。

- (1) 使用目的は研究と関連したものとする。
- (2) 会合の名称・内容等は年会プログラムには掲載しない。
- (3) 多くの方に興味をもってもらいたい会合は希望に応じて年会ホームページに掲載する。
- (4) 時間帯は9:30~17:00の任意の時間とし、年会事務局が調整する。

#### 〈ミーティング会場の公募方法〉

以下の内容を明記の上、年会事務局宛にファックスまたは E-mail にてご連絡下さい。

1. 主催責任者の氏名、住所、連絡先
2. 会合名
3. 予想参加者数
4. 使用希望日、時間帯
5. 年会ホームページへの掲載を (1) 希望する、(2) 希望しない。

公募締切：平成12年12月1日（金）

#### 演題申込方法

今回は、シンポジウム、ワークショップ、一般演題の演題申込と講演要旨の受付は例年通りの所定用紙での申込みに加え、インターネット（WWW）でも受付を行います。インターネットが使用できる環境にある方で、著者のどなたかが電子メールを持っておられる方は、できる限り、日本分子生物学会のホームページ <http://mbsj.biol.kobe-u.ac.jp/annual-meet.html> からリンクしてお申込み下さい。

WWWでの申込みが行えない場合は、3頁以降の指示に従い、例年通りの所定用紙でお申込み下さい。

それぞれの締切日および発表者の応募資格は以下の通りです。

演題締切日：WWWによる場合：8月23日（水）正午まで

所定用紙による場合：8月9日（水）必着

発表資格：発表者として応募できるのは、日本分子生物学会会員（現在入会手続き中の方を含みます）で本年度の会費を納入済みの方であり、1人につき1演題のみです。ただし、他の演題の共著者になることは差し支えありません。

日本分子生物学会への入会を希望される方は、WWW (<http://bunshi.bcasj.or.jp/>) で入会手続きをしていただくか、書面または電話にて、下記まで入会申込書をご請求下さい。

#### 〈入会申込書請求先〉

日本学会事務センター・会員業務 日本分子生物学会係  
〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 学会センターC21  
TEL：(03) 5814-5810 FAX：(03) 5814-5825

#### WWWによる演題申込方法

（詳しい申込方法につきましては8月1日以降に <http://mbsj.biol.kobe-u.ac.jp/annual-meet.html> でご確認ください）

1. 演題受付期間：2000年8月1日（水）～8月23日（水）正午まで（日本時間）  
（これはあくまでも予定ですので、ホームページでご確認下さい）

2. **発表要旨の文字数**：演題名・発表者・所属を含めて全体で1,600バイト（日本語800字もしくは英語165 words程度）以内でお願いします。予め、原稿を用意した上で、WWWの投稿画面にコピー・ペーストされることをお勧めします。なお、要旨の長さについては「確認画面」でお確かめ下さい。
3. **受付コード**：初回の発表演題登録時に「受付コード」が発行されますので控えておいて下さい。演題の受理と同時にメールでも受付コードを通知します。一度登録された要旨の内容に修正を加える際にはこの受付コードが必要となります。もし受領通知（受付コードの通知を含む）が指定のメールアドレスに届かない場合は、登録画面にアクセスして再度登録して下さい。
4. **演題内容の修正**：WWWによる発表の受付期間中は、発表者の英語名（姓）と上記の受付コードの入力により登録画面にアクセスし、修正を行うことが可能です。ただし、混乱を避けるために、修正は2回までに限らせていただきますのでご了承下さい。演題内容を更新するたびに受領通知が発行されますので、受領通知が指定のメールアドレスに送付されていることをご確認下さい。
5. **演題の取消**：既に登録した発表演題を取消したい場合は、上と同様にして発表者の英語名（姓）と上記の受付コードで登録画面にアクセスし、「演題取り消し」を選択して演題を取り消して下さい。折り返し演題が取り消されたことをお知らせするメールが送られます。もしWWWによる発表の締切後に演題の取消しを希望される場合は、年会事務局まで文書にてご連絡下さい（様式は問いません）。
6. **オンライン登録の締切**：WWWでの演題申込受付は2000年8月23日（水）正午（日本時間）で終了します。締切直前にはアクセスが集中し、回線が混雑することにより発表演題の受付に支障をきたすことも予想されますので、できるだけ締切直前を避け、時間的余裕をもって登録していただくようにご協力をお願いします。
7. **演題の採否の通知**：9月中旬～下旬にメールにてご連絡いたします。

#### 所定用紙による演題申込

やむを得ずWWWでの登録が行えない場合に限り、会報に綴込みの申込用紙でお申込み下さい。

1. **演題申込締切日**：8月9日（水）必着  
（用紙による申込みはWWWよりも2週間早く締切りますのでご注意下さい）
2. **演題申込方法**：演題申込書、講演要旨用紙、演題申込受取書、演題採否通知書に必要事項を記入・印字し、講演要旨用紙のコピー6部を添えて、簡易書留便で年会事務局までお送り下さい。
3. **演題申込書記入方法**
  - 1) \*印の項には記入しないで下さい。
  - 2) 発表申込書の連絡先欄には、代表発表者1名の氏名と、演題に関する連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）を記入して下さい。
  - 3) 代表発表者の本年度会費納入を確認するために、演題申込書の指定の欄に、会費払い込みの際に郵便局等が発行する領収証のコピーを貼付して下さい。なお、入会手続き中の方や、領収証を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込をされた方には後日、(財)日本学会事務センター（東京）より会費の請求が送付されますのでご注意下さい。会費未納の場合には発表申込を受理できませんので、ご注意下さい。

#### 4. 講演要旨用紙記入方法

- 1) \*印の項には記入しないで下さい。
- 2) 希望するワークショップの番号を記入して下さい。
- 3) ワークショップを希望されない場合は、「ワークショップを希望しません」に○印を付けて下さい。
- 4) さらに「ポスター発表分類表」(7頁に掲載)より演題にもっとも関連の深い分類を2つ選び、希望順に記入して下さい(例 1-b、3-a)。ワークショップ希望の場合も記入して下さい。
- 5) また、同一グループが一連の発表をし、関連演題に順序をつけたい場合は、その旨を通信欄に明確に記入して下さい。
- 6) 講演要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサ(ただし、できるだけレーザープリンターをご使用下さい)またはタイプライターで直接印字するか、または印刷したものを丁寧に糊付して下さい。
- 7) 代表発表者の名前の左肩には○印をつけて下さい。
- 8) 所属は略称を用いて下さい(外国の所属には国名を明記して下さい)。
- 9) 昨年同様、演題、発表者氏名、所属を日本語と英語で並記して下さい。
- 10) 講演要旨は、和文・英文で10ポイントのサイズを用いて作成して下さい。なお、縮小率は約65%ですので図や表にご注意下さい。
- 11) すべての発表者のふりがなを「発表者ふりがな」の枠内に記載して下さい。英字で記入する場合は、FAMILY NAME, First Name Middle Nameの順で記載して下さい。
- 12) 講演要旨の鮮明なコピー6部(B5判)を添付して下さい(必ずオリジナルのコピーをお送り下さい)。

#### 5. 演題申込受取書・演題採否通知書記入方法

- 1) 演題申込受取書と演題採否通知書の葉書には演題名を記入し、裏面には宛名を記入して下さい。なお、50円切手を必ず貼付して下さい。切手が貼られていない場合には返送しません(外国よりお申込みの方は、切手が貼付されていなくても構いません)。
- 2) 演題申込受取書は、申込書到着後に代表発表者の本年度会費納入を確認した上で、返送されません。発表申込の採否は、ポスター発表は組織委員会が、ワークショップはワークショップの世話人が決定します。個々の発表日時と会場については、プログラムでお知らせします。

#### 6. 演題の採否

- 1) お申込みいただいた演題の採否は、プログラム編成後にお送りします「演題採否通知書」にてご確認下さい。

##### 〈演題申込に関する問合せ先〉

第23回日本分子生物学会年会事務局  
学会センター関西内  
〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル14階  
Tel : (06) 6873-2301 Fax : (06) 6873-2300  
E-mail: bunshi23@bcasj.or.jp

## 参加登録について

1. 年会参加者は必ず参加登録を行って下さい。参加章（名札）を持たない方は会場には入場できません。
2. 年会参加費は前納（締切11月10日（金））の場合は一般会員7,000円、学生会員5,000円、非会員10,000円です。11月13日（月）以降の送金から当日の受付までは、一般会員10,000円、学生会員7,000円、非会員11,000円となりますのでご注意ください。  
年会参加費には、講演要旨集1部の代金が含まれています。なお、講演要旨集のみご希望の方には、会員3,000円（ただし、会員1人につき1部のみ）、非会員5,000円でお頒けします。  
講演要旨集は印刷物として発行します。
3. 年会参加費、講演要旨集代金の払込みには、同封の振替用紙をご使用下さい。同封の振替用紙を使用されない場合には必ず通信欄に、第23回日本分子生物学会年会と記入し、送金の内訳、住所、氏名（ふりがな）をご記入の上、下記の郵便振替口座へご送金下さい。

### 〈送金口座〉

口座番号 00970-8-1439

加入者名 第23回日本分子生物学会年会

（日本分子生物学会の学会費の振替用紙とは口座が異なりますのでご注意ください）

なお、経費節減のために、参加章と講演要旨集のそれぞれをできるだけまとめて発送したいと思います。周囲に複数の申込者がいる場合は、年会参加費の納入に際してできるだけ以下のようなご協力をお願いします。

- 1) 参加章と講演要旨集を一括して発送できるグループ（例えば研究室単位等）を作り、連絡責任者を決めて下さい。連絡責任者は、年会参加費等を集め、一括して振替用紙で送金して下さい。
- 2) 連絡責任者は、送金と同時に、別途、連絡責任者の住所、TEL、FAX、E-mail と送金の明細（各送金者の氏名（ふりがな）、所属、内訳）を明記して、ファックス、E-mail もしくは郵便にて年会事務局宛にお送り下さい（特に様式はありません）。
4. 11月10日（金）までに年会参加費を振込まれた方には、年会前（11月下旬）に連絡責任者に参加章と講演要旨集を一括してお送りし、配布していただくこととなりますのでご注意ください。
5. 年会参加費等払込みの領収証は、原則として発行しませんのでご了承下さい。念のため、郵便局が発行する領収証は、参加章や講演要旨集の到着まで保管しておいて下さい。

## 年会期間中の宿泊のご案内

本年会での宿泊予約業務は、JTB 国際旅行西日本営業部に依頼しております。会報に綴込んだ「宿泊ホテルのご案内」をご利用下さい。お申込み・問合せは下記に直接ご連絡下さい。

JTB 国際旅行西日本営業部

「第23回日本分子生物学会年会係」（担当 黒岡）

〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1-4-19 日土地堂島ビル

TEL : (06) 6345-9515 FAX : (06) 6345-0910

E-mail: kokusainishi-ec410@kns.jtb.co.jp

## 第23回日本分子生物学会年会 日程表（予定）

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
12月11日（月）						サテライトシンポジウム 「遺伝子組換えとその制御」						
12月12日（火）		サテライトシンポジウム「遺伝子組換えとその制御」										
12月13日（水）		ワークショップ			バイオ テクノロジー セミナー		シンポジウム					
	貼付	ポスター			説明・討論		ミキサー					
		展 示 会										
12月14日（木）		ワークショップ			バイオ テクノロジー セミナー		シンポジウム					
	貼付	ポスター			説明・討論		ミキサー					
		展 示 会										
12月15日（金）		ワークショップ			バイオ テクノロジー セミナー		シンポジウム					
	貼付	ポスター			説明・討論		ミキサー					
		展 示 会										
12月16日（土）		ワークショップ			バイオ テクノロジー セミナー							
	貼付	ポスター			説明・討論							
		展 示 会										

## 第23回年会ポスター発表分類表 (Classification of poster sessions)

1. ゲノム (Genomes)
  - a ゲノム構造 (Genome structures)
  - b ゲノム機能 (Genome functions)
  - c ゲノム情報 (Genome information)
  - d その他 (Others)
2. 分子構造 (Molecular Structures)
  - a 遺伝子・核酸 (Genes and nucleic acids)
  - b タンパク質 (Proteins)
  - c 分子集合 (Molecular assemblies)
  - d 分子進化 (Molecular evolution)
  - e 染色体外因子(ウイルス、ファージ、プラスミド)  
[Extra-chromosomal factors (Viruses, Phages, Plasmids)]
  - f 糖 (Carbohydrates)
  - g 脂質 (Lipids)
  - h その他 (Others)
3. 分子機能 (Molecular functions)
  - a 複製 (DNA, RNA, 染色体)  
[Replication (DNA, RNA, Chromosomes)]
  - b 染色体外因子(ウイルス、ファージ、プラスミド)  
[Extra-chromosomal factors (Viruses, Phages, Plasmids)]
  - c 組換え、修復、変異  
(Recombination, Modifications, Mutations)
  - d 転写 (Transcription)
  - e 翻訳 (Translation)
  - f RNA 機能、RNA プロセッシング  
(RNA functions, RNA processing)
  - g タンパク質のプロセッシング  
(Protein processing)
  - h 輸送と局在化 (Transport and localization)
  - i その他 (Others)
4. 細胞の構造 (Cellular structures)
  - a 核内構造と核機能(染色体、クロマチン、核小体)  
[Nuclear structures and functions  
(Chromosome, Chromatin, Nucleoli)]
  - b 細胞質オルガネラ (ミトコンドリア、クロロプラ  
スト等)の構造と機能  
[Organelles (Mitochondria, Chloroplasts)]
  - c 生体膜、細胞骨格  
[Cell Membranes, Cytoskeleton]
  - d その他 (Others)
5. 細胞の機能 (Cellular functions)
  - a 生理活性物質 (Bioactive substance)
  - b 細胞増殖 (分裂、周期)  
[Cell proliferation (Division, Cell cycle)]
  - c がん遺伝子、がん化  
(Oncogenes, Tumorigenesis)
  - d エネルギー (Bioenergetics)
  - e 運動 (Cell Motility)
  - f シグナル伝達 (Signal transduction)
  - g 細胞形質転換 (Transformation)
  - h アポトーシス (Apoptosis)
  - i その他 (Others)
6. 高次生命現象  
(Integrative and specialized cellular events)
  - a 免疫 (Immune)
  - b 発生、分化 (形態形成)  
[Development, Differentiation (Morphogenesis)]
  - c 脳・神経系 (Brain, Nervous system)
  - d 老化 (Aging)
  - e 細胞間認識  
(Cell-cell interactions and recognition)
  - f がん (Cancer)
  - g 遺伝病 (Genetic diseases)
  - h その他 (Others)
7. 分子生物学的方法論、技術  
(Methods and techniques)
  - a DNA・RNA工学 (DNA, RNA technology)
  - b タンパク質工学 (Protein technology)
  - c ノックアウト・トランスジェニック生物  
(Knockout, Transgenic animals)
  - d 病因解析および診断 (Diagnosis)
  - e その他 (Others)
8. 生命情報科学・理論  
(Bioinformatics and theories)
  - a 分子進化 (Molecular evolution)
  - b その他 (Others)
9. その他 (Others)

## 〈シンポジウムテーマ一覧〉

1. 計算情報生物学による構造ゲノム科学へのアプローチ  
世話人：郷 通子（名大・院理）、中村春木（阪大・蛋白研）  
演 者：Jeffrey Skolnick (Danforth Plant Sci. Ctr., USA)、西川 建（国立遺伝研）、美宅成樹（東京農工大）、皿井明倫（理研）、藤 博幸（生物工研）、郷 通子（名大・院理）、中村春木（阪大・蛋白研）
2. 構造・機能ゲノム科学  
世話人：横山茂之（東大・理）、倉光成紀（阪大・理）  
演 者：未定
3. ゲノムからヒト・人間を見る  
世話人：榊 佳之（東大・医科研）、五條堀孝（国立遺伝研）  
演 者：榊 佳之（東大・医科研）、五條堀孝（国立遺伝研）、藤田哲也（ルイパスツール研）、大久保公策（阪大・細生工セ）、石野史敏（東工大・遺伝子実験）
4. 糖鎖生物学 —糖鎖リモデリングマウスからのレッスン—  
世話人：谷口直之（阪大・院医）、川崙敏右（京大・院薬）  
演 者：未定
5. エネルギー変換の分子メカニズム —単分子観察からのアプローチ—  
世話人：二井將光（阪大・産研）、柳田敏雄（阪大・院医）  
演 者：田中裕人（科技団・一分子過程プロ）、大岩和弘（通信総研・関西先端研セ）、吉田賢右（東工大・資源化学研）、三本木至宏（阪大・産研）、難波啓一（科技団・ERATO）
6. 真核生物転写のシス・トランス制御の分子メカニズム  
世話人：大熊芳明（阪大・細生工セ）、半田 宏（東工大・フロンティア）  
演 者：半田 宏（東工大・フロンティア）、Alan P. Wolffe (Sangamo Biosciences, USA)、古久保哲朗（奈良先端大・バイオ）、大熊芳明（阪大・細生工セ）、Michael Meisterernst (GSF Inst. Mol. Immunol., Germany)、Michael Cole (Princeton Univ., USA)
7. モディファイアー蛋白質による蛋白質分解の制御  
世話人：田中啓二（都臨床研）、大隅良典（基生研）  
演 者：安田秀世（東京薬大・生命科学）、斉藤寿仁（Picower Inst. for Med. Res., USA）、畠山鎮次（九大・生医研）、野田健司（基生研）、水島 昇（基生研）、千葉智樹（都臨床研）、鈴木俊顕（都臨床研）、小林綾子（阪大・院薬）、阪井康能（京大・院農）、今村健志（癌研）、木全諭宇（京大・生命科学）
8. 染色体の複製と分配のクロストーク  
世話人：和賀 祥（阪大・微研）、滝澤温彦（阪大・院理）  
演 者：平賀壯太（熊本大・医）、Daniel E. Gottschling (Fred Hutchinson Cancer Res. Ctr., USA)、J. Julian Blow (Univ. Dundee, UK)、Stephen P. Bell (MIT, USA)

9. DNA を動かす蛋白質の構造と機能  
世話人：岩崎博史（阪大・微研）、柴田武彦（理研・遺伝生化学）  
演者：Tom Ellenberger (Harvard Med. Sch., USA)、Wei Yang (NIH, USA)、柴田武彦・美川務（理研）、岩崎博史（阪大・微研）、加藤龍一（阪大・院理）、真柳浩太（生物工研）
10. 細胞内の分子選別と輸送のメカニズム  
世話人：中野明彦（理研）、吉久 徹（名大・理）  
演者：中野明彦（理研）、岡本龍史（都立大・院理）、村田昌之（生理研）、谷 時雄（九大・院理）、田浦徹也（Harvard Med. Sch. and Dana-Farber Cancer Inst.、現・徳島大）、中村輝（筑波大）
11. 突然変異の生成メカニズムとその生物進化における存在意義  
世話人：大森治夫（京大・ウイルス研）、岡田典弘（東工大・生命理工）  
演者：Miroslav Radman (Necker 研、France)、岡田典弘（東工大・生命理工）、大森治夫（京大・ウイルス研）、花岡文雄（阪大・細生工セ）、Bradley Preston (Univ. Utah, USA)
12. ポリトピック型膜タンパク質の機能構造形成  
世話人：山口明人（阪大・産研）、川喜田正夫（都臨床研）  
演者：笠原道弘（帝京大・医）、阪口雅郎（九大・院医）、青木和久（都臨床研）、中江太治（東海大・医）、木村能章（生物工研）、山口明人（阪大・産研）
13. 細胞極性  
世話人：大野茂男（横浜市大・医）、岡野栄之（阪大・医）  
演者：未定
14. 植物の対称性分化と軸形成  
世話人：町田泰則（名大・院理）、岡田清孝（京大・院理）、田坂昌生（奈良先端大・バイオ）  
演者：未定
15. 細胞運動性制御の分子基盤  
世話人：佐邊壽孝（大阪バイオサイエンス研）、高井義美（阪大・院医）  
演者：石崎敏理（京大・院医）、伊藤彰彦（阪大・医）、矢野 元（大阪バイオサイエンス研）、中西宏之（阪大・院医）、Arthur M. Mercurio (Res. North Beth Israel Deaconess Med. Ctr. and Harvard Med. Sch., USA)
16. 細胞ダイナミックスのフロンティア  
世話人：米田悦啓（阪大・院医）  
演者：未定
17. 細胞周期制御と癌化の接点  
世話人：西田栄介（京大・院生命科学）、柳田充弘（京大・院生命科学）  
演者：石川冬木（東工大・生命理工）、加藤順也（奈良先端大）、西田栄介（京大・院生命科学）、宮園浩平（癌研）、柳田充弘（京大・院生命科学）

18. 受容体における分子認識

世話人：陣上久人（生物工研）、森川耿右（生物工研）

演 者：陣上久人（生物工研）、Eric Gouaux（Columbia Univ., USA）、平野俊夫（阪大・医）、森川耿右（生物工研）、Ian A. Wilson（The Scripps Res. Inst., USA）

19. 低分子量 G 蛋白質

世話人：高井義美（阪大・院医）、成宮 周（京大・院医）

演 者：西本毅治（九大・院医）、湊 長博（京大・院生命科学）、成宮 周（京大・院医）、高井義美（阪大・院医）、佐々木卓也（徳島大・医）、金保安則（都臨床研）

20. 細胞の接着と運動

世話人：月田承一郎（京大・院医）、中西宏之（阪大・院医）

演 者：未定

21. 再生医学へ向けての幹細胞研究

世話人：仲野 徹（阪大・微研）、西川伸一（京大・院医）

演 者：丹波仁史（阪大・医）、真貝洋一（京大・ウイルス研）、仲野 徹（阪大・微研）、須田年生（熊本大・発生医学研セ）、中内啓光（筑波大・基礎医学）、笹井芳樹（京大・再生研）

22. マラリア原虫をはじめとする寄生適応の分子生物学

世話人：堀井俊宏（阪大・微研）、北 潔（東大・院医）

演 者：未定

23. 内分泌かく乱物質の生体に及ぼす分子機構

世話人：有賀寛芳（北大・院薬）、井口泰泉（岡崎国立共同研究機構・統合バイオセ）

演 者：藤井義明（東北大・院理）、諸橋憲一郎（基生研）、野原恵子（国立環境研）、名和田新（九大・院医）、井口泰泉（統合バイオセ）、有賀寛芳（北大・院薬）

24. エージングの分子生物学：発達、加齢、寿命制御の分子基盤

世話人：帯刀益夫（東北大・加齢研）、森 望（国立長寿医療研セ）

演 者：古市泰宏（エイジーン研）、榎本武美（東北大・薬）、石井直明（東海大・医）、三木哲郎（愛媛大・医）、森 望（国立長寿医療研セ）、鍋島陽一（京大・院医）

〈ワークショップテーマ一覧〉

- |  |                 |  |                       |
|--|-----------------|--|-----------------------|
| 1. ポストゲノム時代の構造生物学                                | 神田 大輔<br>藤 博幸   | 14. PPAR —多様な機能を持つ核内レセプター                        | 大隅 隆<br>本島 清人         |
| 2. ゲノム情報科学の新展開                                   | 中井 謙太<br>高木 利久  | 15. ミトコンドリアゲノムの維持と障害の分子論                         | 康 東天<br>中別府雄作         |
| 3. DNA の三次元構造に書き込まれた情報<br>—非 B 型 DNA の生命機能—      | 大山 隆<br>刀祢 重信   | 16. 微生物細胞分裂における染色体 integrity 保持機構                | 片山 勉<br>仁木 宏典         |
| 4. 細胞膜糖脂質とマイクロドメインの分子生物学                         | 竹田 潤二<br>木下タロウ  | 17. 染色体機能の変動とクロマチン構造変換                           | 舛本 寛<br>広瀬 進<br>石川 冬木 |
| 5. DNA 修復の分子機構                                   | 花岡 文雄<br>田中亀代次  | 18. エンドソーム・リソソーム機能の発現と制御                         | 吉森 保<br>和田 洋          |
| 6. エピジェネティックスの分子基盤                               | 佐々木裕之<br>田嶋 正二  | 19. シグナル伝達と分子認識                                  | 稲垣 冬彦<br>箱嶋 敏雄        |
| 7. リング状オリゴマーを形成する AAA <sup>+</sup> AT-Pase の分子機構 | 小原 光<br>秋山 芳展   | 20. 減数分裂の分子制御：モデル生物を用いた研究の最前線                    | 野島 博<br>下田 親          |
| 8. 21世紀の組換え研究の展開                                 | 小川 智子<br>篠原 美紀  | 21. アポトーシス                                       | 辻本 賀英                 |
| 9. 制限酵素修飾酵素遺伝子：ゲノムを造り替える利己的な動く遺伝子                | 小林 一三<br>大矢 禎一  | 22. 骨格系細胞制御の分子シグナリングと組織再生                        | 野田 政樹<br>宮園 浩平        |
| 10. タンパク質リン酸化、脱リン酸化による生体機能制御                     | 南 康博<br>的崎 尚    | 23. 植物の生き方を決めるシグナル分子                             | 島本 功<br>柿本 辰男         |
| 11. プロテインフラックス&トラフィック                            | 遠藤 斗志也<br>三原 勝芳 | 24. 植物における高次シグナル伝達機構としての His・Asp リン酸リレー系の多様性と普遍性 | 水野 猛<br>杉山 達夫         |
| 12. ポストゲノムに基づく古細菌分子生物学の発展                        | 山岸 明彦<br>石野 良純  | 25. シナプス可塑性の分子機構                                 | 饗場 篤<br>真鍋 俊也         |
| 13. 複製開始分子機構の普遍性                                 | 釣本 敏樹<br>升方 久夫  | 26. 脂溶性シグナル分子による遺伝子情報調節機構                        | 田辺 忠<br>加藤 茂明         |

- |                          |                |  |               |
|--------------------------|----------------|--|---------------|
| 27. スカベンジャー受容体ファミリーとその機能 | 沢村 達也<br>新井 洋由 | 32. 高次生命現象を遺伝子でどこまで説明可能か？  | 近藤 滋<br>芝 清隆  |
| 28. シグナル伝達におけるプロテオリス     | 日和佐隆樹<br>久永 真市 | 33. <b>Male Germ Cell Development in Mammals</b><br>哺乳類の雄性生殖（細胞）分化 | 野崎 正美<br>岡部 勝 |
| 29. パターン形成の分子機構          | 佐々木 洋<br>日比 正彦 | 34. 自然免疫と適応免疫のクロストーク   | 審良 静男<br>菊谷 仁 |
| 30. 細菌感染の分子機構            | 笹川 千尋<br>堀口 安彦 | 35. 生殖細胞の成立基盤  | 松居 靖久<br>小林 悟 |
| 31. 神経細胞の形態制御            | 貝淵 弘三<br>竹居光太郎 | 36. 多様な先端可視化技術と分子生物学の接点を考える  | 福井 希一<br>原島 俊 |

## 〈ワークショップ概要〉

### 1. ポストゲノム時代の構造生物学

神田大輔（生物工研）、藤 博幸（生物工研）

時間的空間的な遺伝子発現の総体（トランスクリプトーム、プロテオーム）を調べ、生体系を構成する情報ネットワークを理解しようという試みが、ポストゲノムの主要な研究テーマとして注目されている。ポストゲノムがこのような網羅性を追求するのに対して、構造生物学は個別の系を研究対象として分子レベルでの生命現象の理解を指向している。一方で、構造ゲノミクスのように、網羅性を指向した動きも出てきている。このような状況の中での、構造生物学の分子生命科学における位置を探るため、本ワークショップを企画する。プロテオーム解析、構造ゲノミクス、超分子構造の解析の近年の動向、またそれらの研究をつなぐ上でのバイオインフォマティクスの役割を各演者に紹介してもらう。最後にディスカッションの時間を設定して議論を深める。

### 2. ゲノム情報科学の新展開

中井謙太（東大・医科研）、高木利久（東大・医科研）

ゲノム塩基配列データが蓄積されるにつれて、ゲノム情報科学の重要性がますます認識されるようになってきている。本ワークショップでは、高性能なソフトウェア、例えば、アセンブリーソフトの出現によって、塩基配列決定のペースが決定的に影響を受けた例に代表されるゲノム情報科学の実用的な側面と、ゲノム情報の解析を通して、生命情報の原理的な理解に迫るといった基礎的な側面の双方に着目し、公募も含めた第一線の研究発表の場としたい。

### 3. DNA の三次元構造に書き込まれた情報 —非 B 型 DNA の生命機能—

大山 隆（甲南大・理）、刃祢重信（川崎医大）

DNA には、よく知られた B 型構造の他にも多様な構造が存在する。左巻きのらせんを持つ Z 型 DNA や、らせん軸の軌道が曲がった構造のベント DNA、さらには、三重鎖、四重鎖構造をとった DNA などは、その代表的な例である。最近になって、これらの構造が、遺伝子発現の制御を始めとした生命現象のさまざまな局面で、重要な役割を果たしていることが解明され始めた。本ワークショップでは、非 B 型 DNA 構造の生物学的意義について、幅広い視点から議論する。

### 4. 細胞膜糖脂質とマイクロドメインの分子生物学

竹田潤二（阪大・院医）、木下タロウ（阪大・微研）

近年、脂質が細胞内シグナル伝達機構に深く関わっていることが、PI3 キナーゼの活性化機構の解析などを通して明らかになりつつある。一方、スフィンゴ脂質は細胞膜上でマイクロドメインあるいはラフトと呼ばれる特殊な領域を形成し、さまざまな生物学的機能に深く関わっていることが想像されている。本ワークショップでは、細胞膜糖脂質の生合成と機能に関わる最近の知見を紹介したい。

### 5. DNA 修復の分子機構

花岡文雄（阪大・細生工セ）、田中亀代次（阪大・細生工セ）

生物はさまざまな DNA 損傷に対応して、多様な修復機構を備えている。近年、各種 DNA 修復機構の分子レベルでの解析が進み、また修復欠損病の原因遺伝子も次々と明らかにされつつある。さらに病態モデルとしての修復遺伝子ノックアウトマウスも数多く作成され、ダブルノックアウトといった手法も取り入れられている。本ワークショップでは、種々の修復機構の分子レベルでの解析を中心に、DNA 修復研究の最前線を紹介する。

## 6. エピジェネティックスの分子基盤

佐々木裕之（国立遺伝研）、田嶋正二（阪大・蛋白研）

遺伝情報の発現には、直接塩基配列に依存しない“エピジェネティック”な影響が重要な因子として働いている。このエピジェネティック効果には、DNAメチル化、ヒストンのアセチル化、クロマチンリモデリング、それとポリコーム遺伝子群等の関与が挙げられる。本ワークショップでは、特に染色体DNAのメチル化に注目して、これに関わるエピジェネティック効果の分子基盤について議論を深める場としたい。

## 7. リング状オリゴマーを形成する AAA+ ATPase の分子機構

小椋 光（熊本大・発生医学研セ）、秋山芳展（京大・ウイルス研）

オルガネラの形成、膜融合、タンパク質の凝集阻止・再生あるいは分解などさまざまな細胞機能を制御する AAA タンパク質は共通の ATPase ドメインを持つ新しいタイプのシャペロンである。DNA複製、組換え・修復、転写に働く ATPase 群の多くとも共通性が高く、より大きなファミリーを形成することが明らかとなり、AAA+ と総称されるようになってきた。これらは共通してリング状のオリゴマーを形成する。リング構造の意義も含め、AAA+ ATPase の分子機構の現状について紹介する。

## 8. 21世紀の組換え研究の展開

小川 智子（国立遺伝研）、篠原 美紀（阪大・院理）

組換え反応は、細菌から高等真核生物まで保存された遺伝子機能を中心に行われ、これら遺伝子機能の修飾と厳密な制御により多様化している。その制御で働く蛋白質はまた、クロマチン構造、細胞周期のチェックポイント機構、核内構造体、転写、DNA複製、染色体分配などの反応にも関与する。したがって、組換え機構の全容の理解には、これら蛋白質の素反応とその連携の仕組みを統括的に解析する必要がある。今回は、これらの視点で組換え研究を考える。

## 9. 制限酵素修飾酵素遺伝子：ゲノムを造り替える利己的な動く遺伝子

小林 一三（東大・医科研）、大矢 禎一（東大・院新領域）

ゲノムを存続させる力は何か、言い換えれば、ゲノムの変化・進化をつき動かす力は何か？手がかりが、細胞生物の全ゲノム配列解読から現れ始めた。見えてきたのは、「本来利害の異なる遺伝子たちが、あるいは争いあるいは協力する1つのコミュニティー」としてのゲノムである。とりわけ、ゲノムの他の部分と利害を異にする「利己的遺伝子」単位が、ゲノムの維持・変化に重要な役割を果たしているらしい。一方ゲノムの側もこれらの利己的遺伝子への対応手段を進化させてきた。ゲノムの解読・比較とゲノム変化機構の実験解析とが合流して、ゲノムの存続と進化の原理に一気に迫る時が来た。

## 10. タンパク質リン酸化、脱リン酸化による生体機能制御

南 康博（神戸大・医）、的崎 尚（阪大・院医）

タンパク質キナーゼ、ホスファターゼによる細胞内標的タンパク質のリン酸化、脱リン酸化は、多彩な生体機能の発現制御過程に密接に関わっている。近年多種多様なタンパク質キナーゼ、ホスファターゼが発見され、さらにそれらの機能について新たな知見が蓄積してきており、タンパク質リン酸化、脱リン酸化研究の新たな展開の気運が高まりつつある。本ワークショップでは、生体機能制御過程におけるタンパク質キナーゼ、ホスファターゼの役割についての最新のホットな知見を紹介していただき、今後のタンパク質キナーゼ、ホスファターゼ研究の接点について新たな方向性を見出したい。

## 11. プロテインフラックス&トラフィック

遠藤 斗志也 (名大・院理)、三原 勝芳 (九大・院医)

細胞機能は、合成されたタンパク質が細胞内の適切な部位に移行し、機能化することにより保証される。どのタンパク質が、どんなタイミングで、どの細胞内移動経路に乗って、どこに移行し、機能がどう変換されるか。これがプロテイントラフィックの主要な問題である。ゲノムプロジェクトの進行により、トラフィックを細胞内で合成される全タンパク質に関する、方向性を持った定量的なタンパク質の流れ(プロテインフラックス)として捉えることが可能になりつつある。ここではポストゲノム時代における細胞生物学の重要課題として、プロテインフラックスという視点で捉えたトラフィックについて討論したい。

## 12. ポストゲノムに基づく古細菌分子生物学の発展

山岸明彦 (東京薬大)、石野良純 (生物工研)

古細菌が第3の生物として提唱されてから20数年が過ぎるが、最近のゲノムプロジェクトの流れにより世界各地でゲノム配列解析が進み、現在までに数種の古細菌の全ゲノム配列が決定されている。その結果もたらされた情報をもとに、遺伝子構造や産物の一次配列を比較することによって、古細菌が、それぞれ真正細菌とも真核生物とも類似した特徴を有しており、進化的にみて大変重要かつ興味深い生物群であることが確認された。したがって、これまでに蓄積されてきた、真正細菌、真核生物での研究成果と対比させながら、古細菌細胞に見られるさまざまな分子機構を理解することによって、我々の生命現象に対する理解は大きく深まることが期待される。本ワークショップでは、ポストゲノム時代に合わせ本格化した古細菌の基礎分子生物学の現状と今後の展望を議論したい。

## 13. 複製開始分子機構の普遍性

釣本敏樹 (奈良先端大・バイオ)、升方久夫 (阪大・院理)

DNA複製反応は増殖細胞がゲノム情報を維持するために必須の反応であり、細胞周期や染色体構造の変化と密接にリンクして制御されている。このように基本的な生命反応は種を越えて保存されていると考えられ、実際に関与する因子には普遍性がみられる。一方、さまざまな生物種では複製開始点の構造を始めとして種特異的な違いも明らかになりつつある。本ワークショップでは、複製開始とその制御機構に焦点を絞り、様々な生物種を越えた普遍性を浮き彫りにすることにより、複製開始の全体像を理解したいと考えている。

## 14. PPAR—多様な機能を持つ核内レセプター—

大隅 隆 (姫路工大・理)、本島清人 (東邦大・薬)

PPARはペルオキシソーム増殖剤、抗糖尿病剤、長鎖脂肪酸、エイコサノイドなど、さまざまな化合物を受容する核内レセプターである。PPAR $\alpha$ は脂質のホメオスタシス、 $\gamma$ は脂肪細胞分化、血糖調節、炎症調節など、 $\delta$ は胚の着床などに重要とされている。PPARファミリーは、種々のシグナルにตอบสนองして多様な生体調節を行う転写因子と考えられ、幅広い関心を呼んでいる。このワークショップではPPAR研究の最新の成果を紹介いただき、討論する。

## 15. ミトコンドリアゲノムの維持と障害の分子論

康 東天 (九大・院医)、中別府雄作 (九大・生医研)

ミトコンドリアゲノム維持に関係する遺伝子も次々と同定され、ミトコンドリアゲノムの維持と障害を分子レベルで論じることができるようになってきた。しかし、ミトコンドリアDNAの加齢や病態における変異の発生とその蓄積の機構については、例えば、最もよく研究されている活性酸素の役割についてさえ多くが不明である。当ワークショップでは、ミトコンドリアゲノムの維持と障害の分子機構に

ついて幅広い角度から論議したい。

## 16. 微生物細胞分裂における染色体 integrity 保持機構

片山 勉 (九大・院薬)、仁木宏典 (熊本大・発生医学研セ)

細胞増殖時に染色体 DNA の全体構造を保持する機構は、染色体の 1 回性複製・均等分配・組み換えなどの制御とその連携により成立する。1 回性複製は、複製開始タンパク質の適時的な機能制御と、中絶なく確実に全体を複製しきるよう仕組みられた複製フォーク装置に依存する。染色体分配には、特定 DNA 領域とそこに作用するタンパク質の移動と局在性が必要である。本企画では、生化学・分子遺伝学を総合した微生物細胞の研究から、染色体保持機構に関わる分子装置とその作用機構に関する成果を紹介したい。

## 17. 染色体機能の変動とクロマチン構造変換

舂本 寛 (名大・院理)、広瀬 進 (国立遺伝研)、石川冬木 (東工大)

染色体機能の解析の進展とともに、DNA の一次配列で機能の全てが決まるのではなく、配列に依存しながらもそこにどのようなクロマチン構造が形成されるかによってエピジェネティックに機能が変化したり、あるいは、細胞増殖を繰り返しても安定に機能が維持されることが解ってきた。そこで本ワークショップではクロマチンの構造形成、維持、変換機構を切り口に真核生物染色体の幅広い機能にまつわる生命現象に迫ってみたい。

## 18. エンドソーム・リソソーム機能の発現と制御

吉森 保 (基生研)、和田 洋 (阪大・産研)

エンドソーム・リソソーム系のオルガネラは細胞の内と外との接点にあたる細胞内小器官であり、細胞の代謝生理のみならず細胞間情報伝達的一端をも担う重要なコンパートメントである。近年、吉森、和田らの研究グループは各々、初期エンドソーム、後期エンドソームの膜動態を担う新規の機能分子の研究を進め、リバースジェネティクスの手法を駆使した機能解析を進めている。本ワークショップではこれらの研究を中心に、エンドソーム系オルガネラの膜ダイナミズムを司る分子機構と、エンドソーム・リソソームに局在する分子 (加水分解酵素、V-ATPase など) の機能発現の制御機構を議論したい。

## 19. シグナル伝達と分子認識

稲垣冬彦 (北大・院薬)、箱嶋敏雄 (奈良先端大・バイオ)

シグナル伝達に関与する蛋白質は複数の機能ドメインより構成されており、分子内、分子間のドメイン相互作用を通してシグナルは制御されている。したがって、個々の機能ドメイン間の分子認識機構を解明すると同時に、インタクトあるいはインタクトに近い構造フレームでシグナル伝達機構およびその制御機構を解明することが重要である。本ワークショップでは、シグナル伝達における蛋白質相互の分子認識機構および制御機構について議論する。

## 20. 減数分裂の分子制御：モデル生物を用いた研究の最前線

野島 博 (阪大・微研)、下田 親 (大阪市大・院理)

減数分裂の分子制御機構の解析が、急速に進展しつつある。酵母や線虫などの分子生物学のモデル生物を用いた研究がブレイクスルーを果たそうとしている。これはゲノム情報の蓄積と、顕微鏡観察技術の飛躍的な発展により、遺伝子とタンパク質から減数分裂という高次の細胞レベルの現象を構築することが容易になったからである。本ワークショップでは若手研究者による先端的な研究成果を話していたき、この研究分野の現状を把握するとともに将来を展望したい。

## 21. アポトーシス

辻本賀英（阪大・院医）

アポトーシス（細胞死）は細胞の持つ自爆機構であり種々の生命現象に関わっている。1980年代の後半に Bcl-2, Fas などのいくつかのアポトーシス関連因子が知られるようになり、一方、線虫 (*C. elegans*) を用いたプログラム細胞死の遺伝学的解析が進展したことを契機に、爆発的な研究がなされ、現在では、そのシグナル伝達機構の基本的な骨組みは随分とよく分かるようになってきた。また、アポトーシスの制御破綻が多くの疾患に関わっており、アポトーシス研究がそれら疾患の治療に向け新しいアプローチを提供する可能性を秘めているため、基礎生物学の分野に留まらず、医学、薬学の分野においても重要なテーマになっている。今回のワークショップでは、アポトーシス研究の新たな進展を発表していただき、アポトーシスの分子機構とその制御に関して活発な議論をしていただく予定である。

## 22. 骨格系細胞制御の分子シグナリングと組織再生

野田政樹（東京医歯大）、宮園浩平（癌研）

骨格系細胞の発生過程において機能する、形態形成ならびに骨格細胞の特異性を決定する分子群のシグナルの解析は、成人の骨粗鬆症、変形関節症、骨折治癒過程の異常などにおける細胞の病態生理を解明し、組織再生の基礎となる分子機構を理解する上で、重要である。本ワークショップでは、骨芽細胞、軟骨細胞、破骨細胞の制御シグナル分子の機能の最先端の知見について討論する。

## 23. 植物の生き方を決めるシグナル分子

島本 功（奈良先端大・バイオ）、柿本辰男（阪大・院理）

植物の分子生物学は、ゲノム解析の進展に伴い急展開を見せている。その中でも、植物が光や他生物など、外界からのシグナル、あるいは生体中のホルモンなどのシグナルに応答して行う一連のシグナリングについて、新しい遺伝子やタンパク質が発見されてきている。このワークショップではシグナリングにおいてキーとなる遺伝子とタンパク質の同定とその特性について活発な議論をしたい。シグナル分子の解析を通して植物特有の生き方が見えてくることを期待している。

## 24. 植物における高次シグナル伝達機構としての His・Asp リン酸リレー系の多様性と普遍性

水野 猛（名大・院生命農学）、杉山達夫（名大・院生命農学）

生物は進化の過程でタンパク質のリン酸化を介したシグナル伝達に関して二種類の普遍的モードを確立したと考えられる。「Ser/Thr/Tyr リン酸化」であり、「His/Asp リン酸化」である。His・Asp リン酸リレー系は原核生物にだけ限定されたシグナル伝達機構ではなく、酵母や粘菌といった真核生物に His キナーゼが続々と発見されている。また、植物における高次シグナル伝達機構の新たなパラダイムとして注目され、分子生物学的研究が展開されつつある。このような現状を捉え、植物における His・Asp リン酸リレー系に関する最近の新展開を中心としたワークショップを企画する。

## 25. シナプス可塑性の分子機構

饗場 篤（東大・医科研）、真鍋俊也（神戸大・医）

脳は発達完了した後も、時々刻々その微細構造や機能を動的に変化させている。これにより、記憶・学習といった脳高次機能が可能となっているが、その基礎過程としてシナプスの長期的修飾が重要である。本ワークショップでは、このシナプス可塑性の発現機構を細胞レベルから個体レベルまで幅広く扱うが、その背景にどのような分子レベルでの変化が起こっているかという点に注目したい。これを通じ、神経系修飾機構の分子レベルでの大原則の解明に迫れることを期待する。

## 26. 脂溶性シグナル分子による遺伝子情報調節機構

田辺 忠（国循セ研）、加藤茂明（東大・分生研）

ステロールや脂肪酸などの低分子量脂溶性分子は、SREBP や PPAR などのクラスの異なるリガンド応答性転写制御因子のリガンドとして、代謝調節、細胞機能、細胞死など幅広い生命現象に関わっている。本シンポジウムでは、低分子量脂溶性分子をリガンドとする SREBP, PPAR, LXR, FXR 等のレセプターを中心に、最近明らかになった低分子量脂溶性分子のシグナル伝達機構に関する最近の知見を総合的に論ずる。

## 27. スカベンジャー受容体ファミリーとその機能

沢村達也（国循セ研）、新井洋由（東大・院薬）

スカベンジャー受容体ファミリーは変性リポ蛋白に対する親和性により同定された蛋白群であるが、互いに構造は大きく異なり、生体内ではそれぞれ固有の役割を担っている可能性がある。本ワークショップでは新しく同定された受容体を紹介するとともに、最近分かってきたそれぞれの受容体の生理的な機能について、特に細胞との相互作用（例えば、アポトーシス細胞の処理、血小板の認識など）という観点から見た機能について紹介する。

## 28. シグナル伝達におけるプロテオリシス

日和佐隆樹（千葉大・医）、久永真市（都立大・院理）

近年における精力的な研究によりシグナル伝達機構が徐々に解明されてくると、プロテアーゼはシグナル伝達分子の代謝を制御し、シグナル伝達に密接に関わっていることが明らかになってきた。そこで本ワークショップはカスパーゼ、カルパイン、カテプシン等さまざまなプロテアーゼのシグナル伝達との関わりについて最新の情報を公開し、シグナル伝達におけるプロテオリシスの役割について理解を図るものである。

## 29. パターン形成の分子機構

佐々木洋（阪大・細生工セ）、日比正彦（阪大・院医）

生物の体は、体軸や器官となどさまざまな規則正しい構造から成り立っているが、そういった構造を作り上げるためには、細胞の状態の変化（分化・増殖など）を時間的および空間的に厳密に制御する必要がある。そこで、本ワークショップでは、これらの制御機構に対する、転写制御・シグナル伝達などのさまざまな分子的アプローチを取り上げ、生物がパターン形成に用いている分子機構について議論したい。講演は原則として一般演題からの公募とする。

## 30. 細菌感染の分子機構

笹川 千尋（東大・医科研）、堀口 安彦（阪大・微研）

病原細菌は宿主細胞の本来の機能を修飾することによって感染を成立させている。そのため細菌感染の場では異常な宿主細胞のさまざまな姿が見られるが、それは特定のシグナル伝達系や生体分子機能の細菌による応用、増幅、阻害の結果に他ならない。本ワークショップでは、このような細菌感染の分子機構の解析に焦点を当てて最近の研究成果を紹介し、分子生物学と細菌学の接点に広がる新しい研究領域を展望したい。

## 31. 神経細胞の形態制御

貝淵弘三（名大・院医）、竹居光太郎（理研）

神経細胞は脳内において複雑なネットワークを形成するが、その基本機能は樹状突起より信号を入力して軸索から信号を出力して他の神経細胞に伝えることである。このため神経細胞は分化成熟の過程で

大きく形態変化する。すなわち、神経細胞は minor processes と呼ばれる共通の突起から通常一本の軸索と複数の樹状突起を伸展して極性を形成する。軸索はその先端の成長円錐が種々のガイダンス因子に反応して誘導され脳内の正しい位置へと投射される。一方、樹状突起は多数分岐して、軸索の神経終末とシナプスを形成する。また、記憶成立の素過程と考えられている長期増強 (LTP) の際にシナプスの再構築も観察されている。これらの神経細胞の形態変化は細胞骨格や細胞接着装置のダイナミックな再構築を伴うものであるが、近年までその分子基盤は明らかではなかった。最近の分子生物学や神経生物学の急速な進展により、次第に神経細胞の形態制御機構が明らかになってきた。本ワークショップでは、本分野での最先端の研究を紹介して議論したい。

### 32. 高次生命現象を遺伝子でどこまで説明可能か？

近藤 滋 (徳島大・総合科学)、芝 清隆 (癌研)

現在、生物学者が対象としている生命現象の多くは、複数の要素が空間や時間的広がりを持って相互作用する複雑な生命現象である。そのため、これまでは絶大な効力を発揮していた遺伝子クローニングやゲノムの構造の解明だけでは、問題の解明に至ることは難しくなっており、新たな方法論が求められている。本ワークショップでは、そのような「複雑な系」に対して、独自の切り口で取り組んでる研究者を一般公募の中から採択し、ポストゲノム時代の遺伝子研究の展望について活発な議論を行いたい。

### 33. Male Germ Cell Development in Mammals 哺乳類の雄性生殖 (細胞) 分化

野崎正美 (阪大・微研)、岡部 勝 (阪大・遺伝情報)

哺乳動物でも人工授精やクローン動物作出が一般化され、さらに最近では環境ホルモンの精子形成能への影響が取りざたされるなど、近年生殖生物学に対する関心が高まっている。ところが、基礎となる生殖細胞についての理解は不十分であると言わざるを得ない。このワークショップでは性分化後の雄性生殖細胞分化に焦点を絞り、一連の過程における分子生物学的研究の現状を紹介し、今後の展望について議論したい。

### 34. 自然免疫と適応免疫のクロストーク

審良静男 (阪大・微研)、菊谷 仁 (阪大・微研)

ヒトを始めとする高等生物は、あらゆる病原体に対応するように抗原特異的な免疫機構 (適応免疫) を進化させてきた。免疫学や分子生物学の目覚ましい進歩により、抗原受容体の多様性獲得機構、クローン選択機構、リンパ球の活性化調節機構など適応免疫の大まかな仕組みが明らかになってきた。一方、適応免疫の発動までは、自然免疫が生体防御の最前線として機能しているが、この自然免疫における病原体認識機構も分子レベルで明らかになりつつある。自然免疫における中心的なエフェクター細胞は、適応免疫においても抗原提示細胞やエフェクター細胞として重要な働きをしている。また、適応免疫の発動には、自然免疫によって引き起こされた炎症刺激で抗原提示細胞が活性化される必要がある事も明らかになっている。したがって、生体防御反応を真に理解するには、これまでともすれば別個の生体反応として研究されてきた自然免疫と適応免疫のいずれをも包含するような概念が必要と思われる。

### 35. 生殖細胞の成立基盤

松居靖久 (大阪府立母子保健総合医療セ研)、小林 悟 (筑波大・遺伝子実験セ)

胚発生過程での生殖細胞の形成は、多くの生き物では卵内に局在した生殖質によって引き金が引かれることが知られている。一方、哺乳類では生殖質の存在は確認されておらず、生殖細胞形成は胚発生がある程度進んでから初めて起こるようになる。しかしいずれの場合も、どのような分子が実際にその運命を決定付けるのかについては、なお不明な点が多い。本ワークショップではいくつかの代表的な実験動物の生殖細胞形成に関する研究結果を通して、その分子機構解明に向けたアプローチの現状を把

握する。

### 36. 多様な先端可視化技術と分子生物学の接点を考える

福井希一（阪大・院工）、原島 俊（阪大・院工）

分子生物学分野では、従来、視覚による解析は稀であった。しかし、最近の工学的諸技術の発展により新たな展開を見せつつある。特に DNA の可視化、1 塩基対置換の検出、ゲノム中での遺伝子の局在情報等に新しい成果が生まれている。これらの可視化技術は冷却 CCD カメラ、デコンボリューション法、走査型プローブ顕微鏡などの新技術の発展に支えられている。ここでは多彩な先端可視化技術をとりあげ、分子生物学との接点を考える。

(記入例)

## 第23回 日本分子生物学会年会 演題申込書

演題番号\* \_\_\_\_\_ 受付番号\* \_\_\_\_\_

代表発表者名 和 賀 祥

演題に関する連絡先

氏 名 杉 野 明 雄

住 所 (〒 565-0871)

吹田市山田丘3-1

大阪大学微生物病研究所

遺伝子複製研究分野

代表発表者の日本分子生物学会の年会費の払込票兼受領証のコピーを貼付してください。

TEL ( 06 ) 6879 - 8331

FAX ( 06 ) 6877 - 3584

E-mail asugino@biken.osaka-u.ac.jp

-----切り離してください。-----

### チェックリスト

(投函前にご確認ください。)

第23回日本分子生物学会年会 演題申込書

払込票兼受領証のコピー貼付

第23回日本分子生物学会年会 講演要旨用紙

第23回日本分子生物学会年会 講演要旨用紙のコピー 6部

(必ずオリジナルのコピーをお送りください。)

演題申込受取書 (  50円切手貼付)

演題採否通知書 (  50円切手貼付)



## 第 23 回 日本分子生物学会年会 宿泊のご案内

平成 12 年 12 月 13 日 (水) ~ 12 月 16 日 (土) の 4 日間、ポートピアホテル、神戸国際会議場、神戸国際展示場におきまして、上記学会が開催されます。

つきましては、全国各地より学会に参加される皆様方に特別料金でご宿泊のご案内を申し上げます。  
何卒ご利用賜りますようお願い申し上げます。

### 1. 宿泊のご案内

宿泊期間 平成 12 年 12 月 12 日 (火) ~ 12 月 16 日 (土) (1泊朝食付 税金・サービス料込のお1人様あたりの料金です)

カテゴリー	ホテル名	料金 (円)		最寄駅	会場までの所要時間
		シングル	ツイン		
A	ポートピアホテル	12,600	11,550	ポートライナー市民広場駅 下車 徒歩 1 分	会場に隣接
	ホテルオークラ神戸	17,850	14,700	J R 元町駅下車 徒歩 10 分	35 分
	新神戸オリエンタルホテル	12,600	11,550	地下鉄新神戸駅下車 徒歩 1 分	30 分
	神戸ハーバーランド ニューオータニ	12,600	10,500	J R 神戸駅下車 徒歩 2 分	30 分
	神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	10,500	10,500	J R 元町駅下車 徒歩 15 分	40 分
B	ホテルモントレ神戸	11,550	10,500	J R 三宮駅下車 徒歩 5 分	20 分
	神戸東急イン	11,550	10,500	J R 三宮駅下車 徒歩 3 分	20 分
	ホテルパールシティ神戸	11,000	9,000	ポートライナー中埠頭駅下車 徒歩 2 分	5 分
	三宮ターミナルホテル	10,710	10,500	J R 三宮駅構内	15 分
	ホテルゴーフル	11,330	10,185	ポートライナー市民広場駅 下車 徒歩 3 分	2 分
	神戸ワシントンホテルプラザ	10,395	9,975	J R 三宮駅下車 徒歩 5 分	20 分
	ホテルサンルートソブラ神戸	10,500	9,450	J R 三宮駅下車 徒歩 6 分	20 分
C	チサンホテル神戸	9,450	8,925	J R 神戸駅下車 徒歩 3 分	30 分
	グリーンヒルホテル神戸	9,450	8,400	J R 三宮駅下車 徒歩 12 分	30 分
	ホテルサンルート神戸	8,925	7,350	神戸高速線新開地駅下車 徒歩 1 分	35 分
	神戸三宮ユニオンホテル	8,770	8,085	J R 三宮駅下車 徒歩 12 分	30 分
	神戸プラザホテル	8,610	7,560	J R 元町駅下車 徒歩 1 分	25 分
	サンサイドホテル神戸	7,350	—	J R 三宮駅下車 徒歩 5 分	20 分
	新神戸サンホテル	7,035	5,775	J R 三宮駅下車 徒歩 10 分	25 分
	カサベライン神戸	※6,000	※5,000	神戸高速線高速神戸駅下車 徒歩 7 分	40 分

※朝食なしの料金です。

## 2. お申込み方法

別紙申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にてお申込み下さい。

折り返し、宿泊予約確認書、請求書をご送付致します。

尚、開催2週間前になりましても回答がない時は、通信エラーなどが考えられますので、お手数ですが当部までご連絡下さい。

また、ご希望のホテルが満室の場合は、同等クラスの他のホテルをご案内しますので、ご了承下さい。

★ご宿泊に関するお問い合わせは、下記にて承ります。

申込書送付先

〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1-4-19 日土地堂島ビル  
JTB 国際旅行西日本営業部  
『第23回 日本分子生物学会年会』係  
(担当：黒岡)  
TEL：06-6345-9515  
FAX：06-6345-0910  
Email：kokusainishi\_ec410@kns.jtb.co.jp

## 3. お申込み締切日

平成12年11月27日(月)

## 4. 取消料

取消及び変更される場合はお早めにFAXまたは郵送にてご連絡下さい。

下記の取消料及び通信費を差し引いた残額を後日ご返金します。

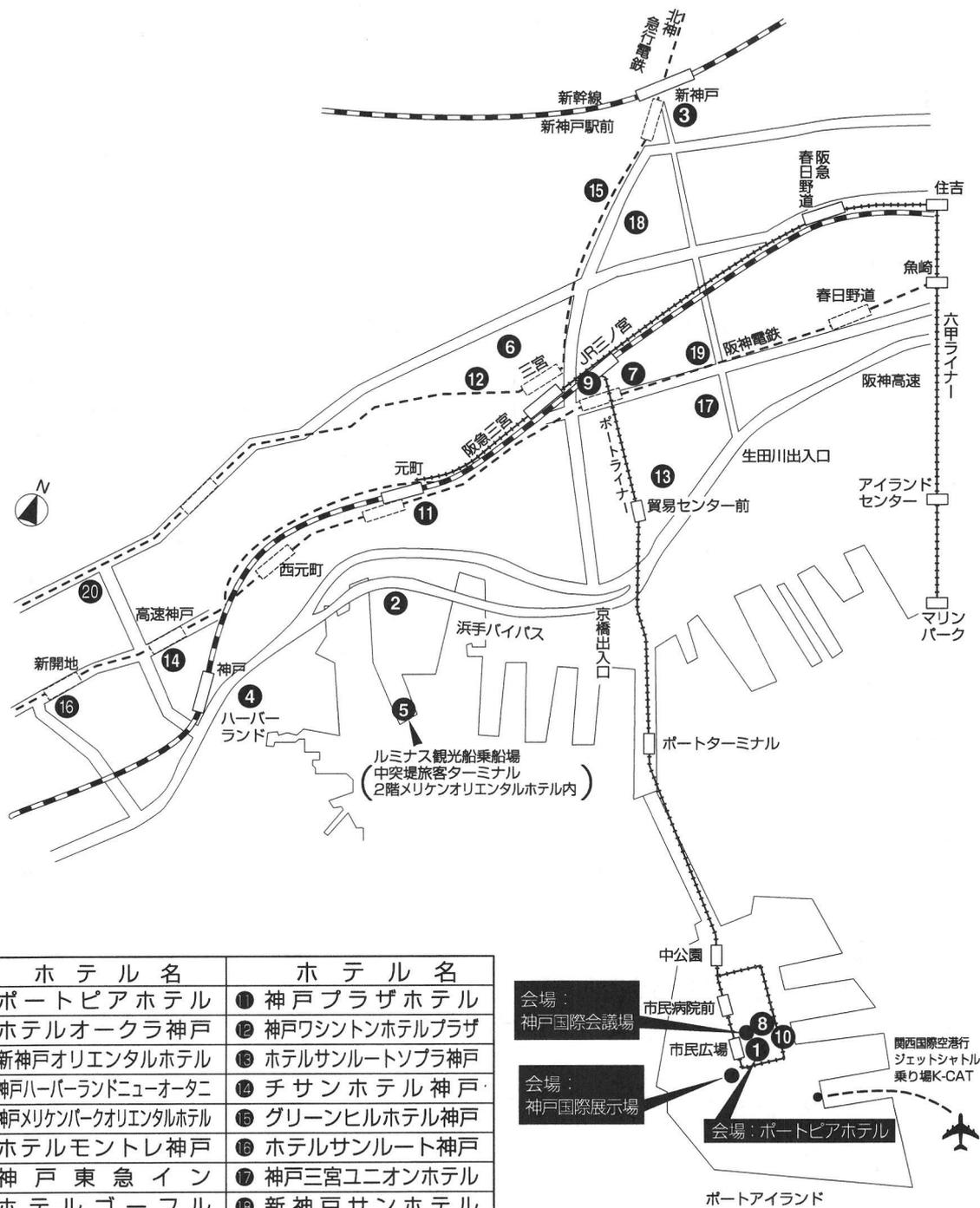
取消日	8日前～4日前まで	3日前～前日	当日、無連絡(不泊)
取消料	2,000円	3,000円	宿泊代金の100%

## 5. ご送金方法

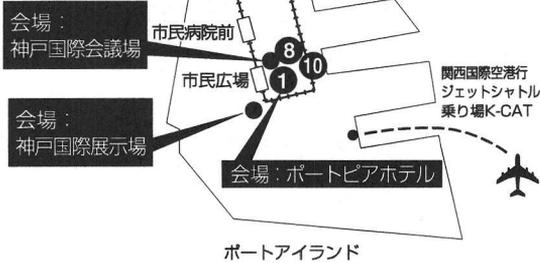
請求書、宿泊予約確認書が届きましたら、現金書留にて当部宛ご送金いただくか、下記の銀行口座にお振込み下さい。又、クレジットカードにてお支払いご希望の方は、申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX、又は郵送にてお送り下さい。

振込先：富士銀行 堂島支店 普通預金口座 1314101

# 神戸市内ホテル・会場案内図



ホテル名	ホテル名
① ポートピアホテル	⑪ 神戸プラザホテル
② ホテルオークラ神戸	⑫ 神戸ワシントンホテルプラザ
③ 新神戸オリエンタルホテル	⑬ ホテルサンルートソプラ神戸
④ 神戸ハーバーランドニューオータニ	⑭ チサンホテル神戸
⑤ 神戸メリケンパークオリエンタルホテル	⑮ グリーンヒルホテル神戸
⑥ ホテルモンテレ神戸	⑯ ホテルサンルート神戸
⑦ 神戸東急イン	⑰ 神戸三宮ユニオンホテル
⑧ ホテルゴーフル	⑱ 新神戸サンホテル
⑨ 三宮ターミナルホテル	⑲ サンサイドホテル
⑩ ホテルパールシティ神戸	⑳ カサベライン神戸



## 第 23 回 日本分子生物学会年会 宿泊申込書

申込代表者氏名										
勤務先										
確認書送付先 〒										
TEL :					E mail :					
					FAX :					
ご返金時口座		銀行		支店 普・当		口座番号		口座名		
ふりがな氏名	性別	宿泊日					泊数	希望ホテル名	シングル	ツイン
		12/12	12/13	12/14	12/15	12/16				
(例) こうべ じろう 神戸 二郎	男	○	○	○			3	ポートピアホテル	1	
(同室者)										
通信欄 (宿泊第2希望等)										

※ツインルームのご希望の方は、同室者名を必ずお書き下さい。

### お支払い方法 (該当するものに○印をご記入下さい。)

1. 現金書留
2. クレジットカード (下記に必要事項をご記入下さい。)

利用カード会社 (該当するものに○印をご記入下さい)	有効期限	引落しカード番号
JTBカード    ミリオンカード    ユニオンクレジット ダイナース    JCB    DCカード 日本信販    VISA    AMEX	年    月まで	
ご署名 _____		

3. 銀行振込

〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-19 日土地堂島ビル JTB国際旅行西日本営業部  
『第23回 日本分子生物学会年会』係 担当: 黒岡  
TEL: 06-6345-9515 FAX: 06-6345-0910  
Email: kokusainishi\_ec410@kns.jtb.co.jp  
お申し込み締切日    平成12年11月27日 (月)

## ◆サテライトシンポジウム演題応募要領について

12月13日(水)から16日(土)まで神戸ポートアイランドで開催される第23回日本分子生物学会年会に先立って、11日(月)午後と12日(火)にサテライトシンポジウム、「遺伝的組換えとその制御」を開催します。口頭発表を希望される方は、A4判用紙1枚に抄録をまとめて、以下の住所に10月末までにご郵送下さい。抄録には、タイトル、演者と共同研究者の名前と所属を記載して下さい。抄録内容の書き方は自由です。郵送時の封筒の表に“サテライトシンポジウム抄録在中”と記載して下さい。

抄録送付先：〒606-8305 京都市左京区吉田河原町14

財近畿地方発明センター内 株式会社コングレ

TEL：(075) 752-0888 FAX：(075) 762-2304

問合せ先：サテライトシンポジウム世話人

武田 俊一

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

京都大学医学研究科

TEL：(075) 753-4410 FAX：(075) 753-4419

E-mail：stakeda@rg.med.kyoto-u.ac.jp

品川日出夫

〒565-0871 吹田市山田丘3-1

大阪大学微生物病研究所

TEL：(06) 6879-8317 FAX：(06) 6879-8320

E-mail：shinagaw@biken.osaka-u.ac.jp

## ◆学会費(年度会費)納入についてのお願い

1. 2000年度分および未納分の学会費を1999年12月にお送りした請求書(郵便振替用紙)により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書(学生証のコピー可)を日本学会事務センター(東京)へ提出して下さい。

正会員学会費 4,500円、学生会員学会費 3,000円

— 学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 年会の発表申込みには、学会費納入控(または領収書)のコピーを添付することが必要です。発表を希望される方は、学会費納入控(または領収書)を保管しておいて下さい。

## ◆日本分子生物学会への入会申込みの手順について

日本分子生物学会に入会を希望される方は、wwwにてお申込みいただくか、書面または電話により下記宛にお申込み下さい。所定の書式をお送りします。なお、年会の演題締切時期(7月～8月)は入会者が多く混雑いたしますので、早目の入会手続きをお勧めします。

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 学会センター C21

財日本学会事務センター・会員業務 日本分子生物学会 係

TEL (03) 5814-5810 FAX (03) 5814-5825

URL: <http://bunshi.bcasj.or.jp/>

## ◆WWWによる会員名簿調査について

本学会では正・学生会員を対象として、数年ごとに郵送による会員名簿調査を行ってまいりました。本年もまた調査の年にあたりますが、今回からインターネット環境下においても同様の調査ができるようになり、会員名簿調査 Web サイトを開設いたしました。

URLは <http://bunshi.bcasj.or.jp/> です。

なお今回は、名簿印刷日程の都合もあり、Webによる登録情報更新は6月16日（金）に一旦締切りといたします。アクセスのなかった会員へは、6月下旬にアンケート葉書を郵送いたしますので、ご協力下さいますようお願いいたします。

## ◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No. 65に一覧として掲載しております。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

### 1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
- 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

### 2. 提出先

日本分子生物学会 選考委員長 花岡文雄  
〒565-0871 吹田市山田丘1-3  
大阪大学細胞生体工学センター  
FAX：(06) 6877-9382

### 3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は選考の対象にならないことがあります。

## ◆各種集会、シンポジウム、講習会のお知らせ

### ○シンポジウム「分子シャペロン2000」矢原一郎先生退官記念シンポジウム

日時：2000年6月21日 13:00~17:30

場所：東京ガーデンパレス（文京区）

オーガナイザー：永田和宏、森 正敬、吉田賢右、瀬原 淳子、小安重夫

主催：文部省特定領域研究 A「分子シャペロンによる細胞機能制御」

予定講演者：Ulrich Hartl (Germany), Arthur Horwich (USA), Joseph Schlessinger (USA), Richard Morimoto (USA), Susan Lindquist (USA), Ichiro Yahara (Japan)

分子シャペロン研究は、新千年紀を迎えて、さらにエキサイティングな分野に变身しようとしています。一昨年の京都での国際学会に続いて、文字通り世界の分子シャペロン研究の先頭を走っているアクティブで魅力的なスピーカーを迎えて、シンポジウムを開催することになり

ました。日本のシャペロン研究は、特定領域研究班を中心に、世界的にもきわめて大きな力となっていますが、これまで日本のシャペロン研究を引っ張って来られた矢原一郎先生が、このたび東京都臨床医学総合研究所を退職されます。本シンポジウムは矢原先生の記念シンポジウムとして企画しました。また、シンポジウム後には懇親会も準備いたしております。出席御希望の方や詳細についてお知りになりたい方は、Fax または E-mail で下記まで御連絡下さい。

連絡先：

小安重夫

〒160-8582 新宿区信濃町35

慶應義塾大学医学部微生物学教室

Fax：(03) 5361-7658

E-mail：chaperon@microb.med.keio.ac.jp

### ○IMSUT 国際シンポジウム「幹細胞生物学の展開：組織形成と再生医学の基礎」

日時：2000年6月22日（木）～6月24日（土）

場所：東京大学医科学研究所講堂（港区白金台）

主催：東京大学医科学研究所（所長・新井賢一）

後援：アムジェン株式会社

プログラム：

①はじめに 西川伸一（京大）

②無脊椎動物幹細胞

阿形清和（岡山大）

Lu B. (UCSF)

③臓器別幹細胞

Lendahl U. (Karolinska Inst.)

Vescovi A. (Natl. Neurol. Inst. C. Besta)

Marshak DR (Osiris Therapeutics)

④幹細胞と細胞分化

浅島 誠（東大）

須田年生（熊本大）

Hsu H. (Amgen Inc.)

⑤ES 細胞の *in vitro* 分化

Smith A. (Edinburgh Univ.)

丹羽仁史（阪大）

横田 崇（東大・医科研）

Keller G. (Mount Sinai Sch. Med.)

Brustle O. (Bonn Univ.)

⑥ヒト ES 細胞

Pera M. (Monash Univ.)

Lebkowski J. (Geron Corp.)

⑦始原生殖細胞

McLaren A. (Wellcome/CRC Inst.)

Donovan PJ (Thomas Jefferson Univ.)

松居靖久（大阪府母子医療セ研）

⑧核移植

Colman A. (PPL Therapeutics)

角田幸雄（近畿大）

⑨エピジェネティックス

Surani MA (Wellcome/CRC Inst.)

Jaenisch R. (Whitehead Inst., MIT)

石川冬木（東工大）

⑩生命倫理（パネルディスカッション）

McLaren A. (Wellcome/CRC Inst.)

Capron AM (USC)

浅野茂隆（東大・医科研）

櫛島次郎（三菱化学・生命研）

位田隆一（京大）

参加費：無料

問合せ先：

〒108-8639 港区白金台 4-6-1

東京大学医科学研究所ヒト疾患モデル研究センター

吉田進昭

Tel: (03) 5449-5753, Fax: (03) 5449-5455

E-mail: nobuaki@ims.u-tokyo.ac.jp

### ○日本癌学会公開シンポジウム「ホルモン依存性がんと核内受容体」

日時：2000年6月23日（金）9:30~

場所：大宮ソニックシティ 国際会議室（埼玉県大宮市桜木町 1-7-5 JR 大宮駅西口より徒歩 5 分）

主催：日本癌学会

共催：日本癌治療学会、日本内分泌学会、ホルモンと癌研究会

プログラム：

9:30

開会の辞

黒木登志夫（日本癌学会会長）

Introduction

尾形悦郎（癌研）

1. ホルモン依存性がんの疫学

座長：藤木博太（埼玉県立がんセ研）

9:40~10:10 ホルモン依存性がんの疫学

富永祐民（愛知県がんセ研）

10:10~10:30 <休憩>

2. ホルモン療法と核内受容体

座長：松本圭史（阪大・医）

10:30~11:00 乳癌とホルモン療法

野口眞三郎（阪大・医）

11:00~11:30 前立腺癌とホルモン療法

- 鈴木啓悦 (千葉大・医)
- 11:30~12:00 ホルモン依存性癌の intracrinology  
宇都宮裕貴・笹野公伸 (東北大・医)
- 12:00~13:00 <休憩>
3. 創薬の分子標的としての核内受容体  
座長: 佐藤文三 (日生病院)
- 13:00~13:30 核内受容体と成長因子のクロストーク  
柳沢 純 (東大・分生研)
- 13:30~14:00 組織特異的ホルモン拮抗薬  
四釜久隆 (山之内製薬・薬理研)
- 14:00~14:30 核内受容体と細胞周期の接点  
池田恭治 (国立長寿医療研セ)
- 14:30~14:50 <休憩>
4. 核内受容体研究の新展開  
座長: 村松正實 (埼玉医大)・尾形悦郎 (癌研)
- 14:50~15:20 エストロゲンレセプター機能のモジュレーター  
林 慎一 (埼玉県立がんセ研)
- 15:20~15:50 核内受容体と転写共役因子  
加藤茂明 (東大・分生研)
- 15:50~16:20 転写共役因子と疾病  
名和田新 (九大・医)

- 16:20~16:40 <休憩>  
Invited lectures
- 16:40~17:20 Role of estrogen receptor  $\alpha$  and  $\beta$  in steroid hormone-dependent tissues and cancers  
Jan-Åke Gustafsson (Karolinska Inst.)
- 17:20~18:00 Role of coactivators in androgen and estrogen action  
Malcom Parker (Imperial Cancer Res. Fund)
- 18:00~18:10 Conclusion Remarks  
村松正實 (埼玉医大)  
閉会の辞 尾形悦郎 (癌研)

世話人:  
尾形悦郎 (癌研)、加藤茂明 (東大・分生研)、野口眞三郎 (阪大・医)、林 慎一 (埼玉県立がんセ研)

問合せ先:  
〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室818  
埼玉県立がんセンター研究所 林 慎一  
Tel: (048) 722-1111 (ex 4694)  
Fax: (048) 722-1739  
E-mail: shin@cancer-c.pref.saitama.jp

### ○千里ライフサイエンス技術講習会 第23回 「プロテオミクス解析: タンパク質の同定と構造解析—二次元電気泳動法を中心に質量分析まで—」

日時: 2000年6月29日 (木) 13:00~17:00  
場所: 千里ライフサイエンスセンタービル5階 (501~503号室)  
(地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ)  
主催: 財団千里ライフサイエンス振興財団  
協賛: アマシャムファルマシアバイオテック株  
財団千里ライフサイエンスセンター  
プログラム:  
技術解説 1. プロテオミクス解析の概要  
2. 二次元電気泳動法について  
3. 画像解析とデータ処理法  
4. 構造解析への応用  
実習 二次元電気泳動法  
サンプル調製法  
講師 宮崎 昭  
(アマシャムファルマシアバイオテック株)  
番澤貴子  
(アマシャムファルマシアバイオテック株)  
定員: 30名 (先着申込み受付順)

参加費: 3,000円  
申込方法:  
氏名、勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、Fax 番号を明記の上、郵便、Fax または E-mail で下記宛お申込み下さい。  
定員になるまでに申込まれた方には、受付された旨の内容と参加費の振込先口座名をご連絡いたします。連絡入手後、1週間以内にお振込み下さい。ご送金確認後、事務手続き完了次第、領収書兼参加証を送付いたします。  
申込締切: 2000年6月20日 (財団必着) ただし、定員になり次第締切ります。  
問合せ先:  
財団千里ライフサイエンス振興財団 技術講習会 G23係  
〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル  
Tel: (06) 6873-2001 Fax: (06) 6873-2002  
E-mail: info-lsf@senri-lc.co.jp  
URL: http://www1.senri-lc.co.jp

### ○千里ライフサイエンス技術講習会 第24回 「マイクロアレイ技術の最新動向」

日時: 2000年6月30日 (金) 13:00~17:00  
場所: 千里ライフサイエンスセンタービル5階 (501~503号室)  
(地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ)  
主催: 財団千里ライフサイエンス振興財団  
協賛: アマシャムファルマシアバイオテック株  
財団千里ライフサイエンスセンター  
プログラム:  
技術解説 1. マイクロアレイシステムの概要  
2. アレイの製造技術  
3. 遺伝子発現解析のためのサンプル調製法  
4. データの再現性・感度・信頼性

5. データ解析方法  
6. Bioinformatics  
7. GeneChip のアプリケーション紹介  
—シーケンス解析および多形解析—  
実習 ワークステーションの操作  
講師 加藤哲雄 (アマシャムファルマシアバイオテック株)  
梶江慎一 (アマシャムファルマシアバイオテック株)  
定員: 30名 (先着申込み受付順)  
参加費: 3,000円  
申込方法:

氏名、勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、Fax 番号を明記の上、郵便、Fax または E-mail で下記宛お申込み下さい。

定員になるまでに申込みされた方には、受付された旨の内容と参加費の振込先口座名をご連絡いたします。連絡入手後、1 週間以内にお振込み下さい。ご送金確認後、事務手続き完了次第、領収書兼参加証を送付いたします。

申込締切：

2000年6月20日（財団必着）ただし、定員になり次第締切ります。

問合せ先：

㈱千里ライフサイエンス振興財団 技術講習会 G24係  
〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル  
Tel : (06) 6873-2001 Fax : (06) 6873-2002  
E-mail : info-lsf@senri-lc.co.jp  
URL : http://www1.senri-lc.co.jp

## ○シンポジウム「21世紀の結晶学」 —創立50周年を記念して—

日 時：2000年7月1日（土） 9：50～18：00  
（受付開始 9：30）

会 場：千代田放送会館（千代田区紀尾井町 1-1  
Tel : (03) 3238-7401 地下鉄「永田町」駅下車）

主 催：日本結晶学会・日本学術会議結晶学研究連絡委員会

協 賛：

応用物理学会、化学工学会、結晶化学研究会、高分子学会、結晶化学研究会、触媒学会、中性子研究連絡会、日本物理学会、日本 RNA 学会、日本化学会、日本金属学会、日本結晶成長学会、日本高圧力学会、日本工学会、日本鉱物学会、日本材料科学会、日本材料学会、日本生化学会、日本生物物理学会、日本セラミックス協会、日本蛋白工学会、日本地質学会、日本電子顕微鏡学会、日本熱測定学会、日本農芸化学会、日本分光学会、日本分子生物学会、日本分析化学会、日本分析機器工業会、日本放射光学会、日本薬学会、有機合成化学協会（以上順不同 予定）

プログラム：

9：30 受付開始

9：50～10：00 はじめに

岩崎不二子（日本結晶学会会長、電通大）

10：00～10：20 結晶学研究連絡委員会の50年

藤井 保彦（日本学術会議結晶学研究連絡委員会委員長、東大）

10：20～10：50 日本結晶学会の50年とアジアの結晶学  
大橋 裕二（アジア結晶学会会長、日本結晶学会前会長、東工大）

10：50～11：10 国際結晶学連合 IUCr と日本の役割

田中 通義（国際結晶学連合副会長、東北大）

11：10～11：50 21世紀の地球・惑星・宇宙と結晶学

—惑星探査計画と鉱物結晶学—

大隅 一政（高工機構・物構研）

11：50～12：30 21世紀のエレクトロニクス材料と結晶学  
—電子デバイス開発の現場から—

古宮 聡（富士通研・基盤技研）

12：30～13：40 昼食

13：40～14：20 21世紀の物性物理学と結晶学  
—構造と電子物性—

福山 秀敏（東大・物性研）

14：20～15：00 21世紀の化学と結晶学

—多次元構造化学と有機結晶設計への展開—

岩崎不二子（電通大・電気通信）

15：00～15：40 21世紀の生物学と結晶学

—ゲノム構造生物学のインパクト—

横山 茂之（東大・院理）

15：40～15：50 休憩

15：50～16：30 21世紀の創薬と結晶学

—スタート：cDNA、ゴール：医薬リード化合物—

松崎 尹雄（三菱化学・横浜総研）

16：30～17：10 21世紀の結晶成長と結晶学

—分子線エビタキシーを中心に—

西永 頌（名城大・理工）

17：10～17：50 21世紀への結晶学の夢

菊田 惺志（高輝度光科学研セ・放射光研）

17：50～18：00 おわりに

加藤 範夫（国際結晶学連合元会長、名大名誉教授）

18：10～ 懇親会

参加費：講演は聴講無料、懇親会参加費5,000円  
（1名あたり）

申込先：

E-mail または Fax で、参加希望者名と所属、懇親会参加の有無をご記入の上、日本結晶学会事務局（E-mail : cr-symp@rlz.co.jp、Fax : (03) 3815-8529）へお送り下さい。当日参加も歓迎します。懇親会参加費は当日徴収します。

## ○千里ライフサイエンスセミナー「血管新生とその制御」

日 時：2000年7月12日（水）10：00～17：00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル 5階ライブホール

主 催：㈱千里ライフサイエンス振興財団

協 賛：㈱千里ライフサイエンスセンター

コーディネーター：渋谷正史（東大・医科研）

プログラム：

1. 血管系と造血系の発生

小川峰太郎（京大・院医）

2. VEGF とその受容体の血管新生・透過性亢進にお

ける役割

渋谷正史（東大・医科研）

3. コンドロモジュリン-I と血管新生の制御

開 祐司（京大・再生研）

4. 糖尿病網膜症と血管新生

石橋達朗（九大・院医）

5. 血管新生とマトリックスメタロプロテアーゼ

杉田賢治（塩野義製薬・診断薬部）

6. 血管新生阻害剤の開発

鈴木日出夫（東亜亜合成・つくば研）

参加費（講演要旨集含む）：

会員 [大学・官公庁職員、財団の賛助会員]：6,000円  
非会員：8,000円  
学生：3,000円

定員：200名

申込方法：

氏名、〒住所、勤務先、所属、電話および Fax 番号を明記の上、郵便、Fax または E-mail で下記宛にお申込み下さい。受付の通知を返送いたしますので、そ

こに記載した振込先口座に参加費をお振込下さい。入金を確認した後、領収書兼参加証を送付いたします。

申込先：

㈱千里ライフサイエンス振興財団セミナー (P1) 係  
〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル 8F  
Tel: (06) 6873-2001 Fax: (06) 6873-2002  
E-mail: info-lsf@senri-lc.jp

## ○千里ライフサイエンスセミナー「発生・細胞・生体工学の新展開」

日時：2000年7月21日（金）10：00～17：00

場所：千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール

主催：㈱千里ライフサイエンス振興財団

協賛：㈱千里ライフサイエンスセンター

コーディネーター：

近藤壽人（阪大・細生工セ）  
山村研一（熊本大・発生医学研セ）

プログラム：

1. 細胞分化のスイッチ SOX  
近藤壽人（阪大・細生工セ）
2. 頭部形成の分子機構  
相澤慎一（熊本大・発生医学研セ）
3. 幹細胞生物学のなかの造血幹細胞  
須田年生（熊本大・発生医学研セ）
4. 色素性乾皮症バリエーション群遺伝子の分離と解析  
花岡文雄（阪大・細生工セ）
5. 核-細胞質間情報伝達分子輸送機構  
米田悦啓（阪大・院医）

6. 遺伝子トラップミュータジェネシス

山村研一（熊本大・発生医学研セ）

参加費（講演要旨集含む）：

会員 [大学・官公庁職員、財団の賛助会員]：6,000円  
非会員：8,000円  
学生：3,000円

定員：200名

申込方法：

氏名、〒住所、勤務先、所属、電話および Fax 番号を明記の上、郵便、Fax または E-mail で下記宛にお申込み下さい。受付の通知を返送いたしますので、そこに記載した振込先口座に参加費をお振込み下さい。入金を確認した後、領収書兼参加証を送付いたします。

申込先：

㈱千里ライフサイエンス振興財団セミナー (P2) 係  
〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル 8階  
Tel: (06) 6873-2001 Fax: (06) 6873-2002  
E-mail: info-lsf@senri-lc.jp

## ○萬有創立85周年記念シンポジウム

—Banyu 85th Anniversary Symposium—

**Challenges in the Basic Sciences toward Innovative Medicine in the 21st Century**

日時：2000年7月24日（月）9：00～17：50

会場：東京国際フォーラム  
（〒100-0005 千代田区丸の内 3-5-1  
Tel: (03) 5221-9000 (代)）

主催：萬有製薬株式会社

組織委員：Chairperson 向山光昭（東京理科大）

Member：谷口維紹（東大）、吉田光昭（萬有製薬㈱つくば研）

General Session 9：00～11：20

1. Protein Kinases and Protein Kinase Inhibitors: Prospects for the Development of Breakthrough Therapeutics  
Roger Perlmutter (Merck Res. Labs.)
2. Antibodies Then-Antibodies Now-Antibodies Tomorrow  
Richard A. Lerner (The Scripps Res. Inst.)

Chemistry Session 12：30～17：40

- C-1.  $\beta$ -Peptidic Drugs in the New Century?  
—A Whole New World by Organic Synthesis—  
Dieter Seebach (Swiss Federal Inst. of Tech.)
- C-2. Synthetic Studies on Hybrid-Type Natural Products  
鈴木啓介（東京工大・院理）

C-3. Chemistry of Biologically and Physiologically Intriguing Phenomena

上村大輔（名大・院理）

C-4. Asymmetric Catalysis of Metallosalen Complexes

香月 島（九大・院理）

C-5. Chemistry and Biology of Microbial Metabolites

大村 智（北里研）

Molecular Biology Session 12：30～17：50

B-1. Development of Novel Pharmaceuticals through an Exploration of Arachidonic Acid Metabolism

A. W. Ford-Hutchinson (Merck Res. Labs.)

B-2. Role of Neurotransmission Integration in Brain Function

中西重忠（京大・院生命科学）

B-3. Molecular Mechanism of Apoptosis

長田重一（阪大・院医）

B-4. The p53-Signaling Pathway

中村祐輔（東大・医科研）

B-5. To Eat or to Sleep?—An Adventure from Orphan GPCRs to Integrative Physiology

柳沢正史（Univ. of Texas）

参加費：無料

申込方法：

参加希望者は「萬有創立85周年記念シンポジウム参加希望」、希望Session (ChemistryまたはMolecular Biology) 氏名、住所、所属(学校名・学部・学科・講座名)、役職名(学生の場合は学年)を明記して、葉書、FaxまたはE-mailにて5月31日(水)までにお申込み下さい。参加証をお送りいたします(定員になり次第、締切らせていただきます)。

申込先：

〒160-0023 新宿区西新宿7-19-22-507

萬有創立85周年記念シンポジウム事務局

(担当：山田、板東)

Fax：(03) 3366-0769、

E-mail：secre@aat.mtci.ne.jp

本シンポジウムの情報はホームページに掲載しています。

URL：http://www.banyu.co.jp/company/symp/index\_sf.html

## ○神奈川科学技術アカデミー (KAST) 教育講座 平成12年度第Ⅱ期受講生募集

・脳科学 (Neuro science) コース

「一臨床病態の理解と応用へ向けて」(新規)

カリキュラム編成者：帝京大学医学部教授 医学博士 田村 晃

コースの特色・ねらい：

脳科学のテーマとして“脳研究のための実験動物モデル”“脳の非侵襲的イメージング”“病床病態の分子メカニズム”の3つに、最近の脳科学の進歩の中からいくつか選んだ“Neuroscience update”の4つを基本としてコースを組み、臨床とのつながりを重視しました。講師にも診察に携わりつつ研究をしている先生方に多くお願ひし、脳科学の全体が理解できるカリキュラムです。

講義日：9/2 9/3 9/4 9/6 9/7 9/8 計6日間

※1日単位の受講可

主なカリキュラム内容：

神経・筋疾患の実験動物モデル/てんかんの実験動物モデル/脳血管障害の実験動物モデル/脳循環代謝測定/光トポグラフィー/MEG基礎/MRI/近赤外線/脳

虚血/精神神経疾患(分裂病、躁鬱病)/脳腫瘍/痴呆病の分子生物学/LTPと記憶/脳の酸素代謝とフリーラジカル/低体温による脳保護/神経幹細胞/神経栄養因子と脳保護/脳とNO

受講料：74,000円 KAST 法人賛助会員(事業所単位)

神奈川県中小企業 59,200円

※1日受講料 15,000円

募集人員：25名

申込締切日：8月11日(金)

問合せ先および主な講義場所：

財団法人 神奈川科学技術アカデミー 教育交流部  
教育研修課

〒213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1  
KSP 西棟 6階

Tel：(044)819-2033 Fax：(044)819-2097

E-mail：kast-ed@net.ksp.or.jp

http://home.ksp.or.jp/kast/

## ○フリーラジカルウィーク-2000 (Free Radical Week-2000)

フリーラジカルに関する研究が盛んになってきました。以前から酸素に由来するフリーラジカル種(スーパーオキシド、ヒドロキシルラジカルなどと呼ばれている)が、生体のいろいろな構成成分と反応し、タンパク、脂質、DNAなどの障害を引き起こすことが知られていました。最近になりこの活性種は生体内のさまざまな反応に関与することが明らかとなり、いわばシグナル伝達の役を担っていると言えます。生体は遺伝的要因に加え、様々な環境因子の影響を受け、健康な状態から疾病状態に至ると考えられ、老化、生活習慣病といった慢性の病態にもフリーラジカルの役割が解明されてきています。今後は各個人毎の遺伝子診断、酸化傷の評価などに基づくオーダーメイドの対策が開始されてゆくものと考えます。

さて、西暦2000年秋には本邦で大きなフリーラジカルに関する学会が集中的に開催されます。現在準備段階にありますが、ここにその学会の概要、日程などをご紹介します。

### ■日本過酸化脂質・フリーラジカル学会第24回大会

会長：吉川敏一(京都府立医大)

会場：国立京都国際会館

会期：2000年10月15日(日)～16日(月)

演題募集締切：2000年7月31日(月)

参加費：5,000円(第10回国際フリーラジカル学会登録者は無料)

### ■第10回国際フリーラジカル学会「疾病と老化におけるフリーラジカルの役割」

10th Biennial Meeting of the International Society for Free Radical Research (SFRR2000)

会長：吉川敏一(京都府立医大)

会場：国立京都国際会館

会期：2000年10月16日(月)～20日(金)

演題募集締切：2000年5月31日(水)

登録費：45,000円(5月31日までの早期登録者、以降は50,000円)

URL：http://koto8.kpu-m.ac.jp/~firstmed/SFRR/SFRR2000.htm

主なシンポジウム：アポトーシス 糖尿病 ミトコンドリア関連疾患 酸化ストレス マーカー レドックスシグナル伝達 一酸化窒素 抗酸化剤 動脈硬化 神経変性疾患 発がん

### ■沖縄サテライトシンポジウム「長寿と天然抗酸化物」

Okinawa Satellite Symposium of 10th Biennial Meeting of the International Society for Free Radical Research “Aging and Natural Antioxidants”

会長：吉川敏一(京都府立医大)

会場：万国津梁館(名護市)

会期：2000年10月21日(土)～23日(月)

演題募集締切：2000年8月25日(金)

登録費：10,000円（第10回国際フリーラジカル学会登録者は無料）

プログラムに関する問合せ先：

京都府立医科大学第一内科 内藤裕二  
〒602-8566 京都市上京区河原町広小路上路梶井町  
Tel: (075) 251-5508  
Fax: (075) 252-3721  
E-mail: ynaito@koto.kpu-m.ac.jp

参加に関する問合せ先：

SFRR2000事務局  
〒600-8216 京都市下京区塩小路通新町西入  
新京都センタービル5F 株式会社ジェイコム内  
Tel: (075) 341-1618  
Fax: (075) 341-1917  
E-mail: sfrr2000@jtbcom.co.jp  
(申込み用紙請求は Fax あるいは E-mail で)

## ○第9回日本バイオイメーキング学会学術集会

会期：2000年11月9日（木）～10日（金）  
（その他、8日午後最新機器を話題としたワークショップを予定）

詳細は集会ホームページをご覧ください。

会場：昭和大学上條講堂、他

東急大井町線、東急池上線 旗の台駅 徒歩5分

演題申込締切：8月12日（土）

予稿原稿締切：9月16日（土）

討論主題：

生体分子から細胞、臓器、個体までの形態と機能の可視化、それに関わる顕微鏡法・画像解析法についての学術研究。

シンポジウムとして、

1. バイオイメーキングのためのプローブ開発(仮題)
2. 新しい顕微鏡によるバイオイメーキング(仮題)を予定しております。

その他、一般演題（口演、ポスター、内容によっては上記シンポジウムでの発表をお願いします）を広く募集いたします。

演題申込方法：講演題目、発表者、登壇者、所属、連絡先（E-mailで連絡可能な方はぜひともご記入下さい）を明記して、下記申込先へ郵便、Fax、またはE-mailにてお申込み下さい。

参加登録費：

一般5,000円（非会員6,000円）、学生会員3,000円

申込先：

〒158-8501 世田谷区上用賀1-18-1  
国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部 川西 徹  
Tel: (03) 3700-9084, Fax: (03) 3700-9084  
E-mail: kawanish@nihs.go.jp  
集会ホームページ：  
URL: <http://www.nihs.go.jp/hotnews/hotnews.html>

## ○第3回酸素添加酵素国際会議「酸素と生命」 —酸素添加酵素、酸化酵素およびリポドメディエーター—

会期：2000年11月26日（日）～29日（水）（4日間）

会場：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）

主催：第3回酸素添加酵素国際会議「酸素と生命」  
—酸素添加酵素、酸化酵素およびリポドメディエーター—組織委員会

責任者：組織委員長 石村 巽（慶應大・医）

他の協賛団体：

日本薬学会、日本化学会、日本炎症学会、日本生物物理学会、日本生化学会（協賛予定）

計画概要（主な主題）：

- A) 一原子および二原子酸素添加酵素の構造と酸素活性化機構
- B) 酸化酵素の構造と機能、プロトン輸送機構
- C) 酸素センシングの分子機構

- D) 活性酸素、NO、COの作用機構
- E) リポドメディエーターの生理作用とその制御
- F) 酸素添加酵素研究の今後の展望
- G) 特別講演：R. W. Estabrook 博士（受諾）および H. Michel 博士（交渉中）

問合せ先：

〒160-8582 新宿区信濃町35  
慶應義塾大学医学部医化学教室内  
第3回酸素添加酵素国際会議「酸素と生命」  
—酸素添加酵素、酸化酵素およびリポドメディエーター—組織委員会事務局  
組織委員長：石村 巽、事務局長：三谷美美子  
Tel: (03) 3355-2827, Fax: (03) 3358-8138

## ○構造ゲノム科学国際会議（International Conference on Structural Genomics 2000）

構造ゲノム科学は、膨大な遺伝子の機能を解明するために大型プロジェクトとしてまず日本で、ついで欧米で研究が開始されており、このような世界的な研究の流れを受けて日本で第1回の「構造ゲノム科学国際会議」を企画しました。将来非常に重要な構造ゲノム科学の国際会議を日本で最初に開催することは、世界における日本の貢献の上からも極めて重要です。

会期：2000年11月2日（木）～5日（日）

場所：パシフィコ横浜

（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

Tel: 0120-045-221

URL: <http://www.pacifico.co.jp/>

共催：

日本農芸化学会、日本生化学会、日本分子生物学会、日本生物物理学会、日本化学会、日本蛋白質工学会、日本結晶学会、日本分光学会、日本薬学会  
後援予定：科学技術庁、理化学研究所

主要演目：

構造ゲノム科学（プロジェクト現状、方法論、成果）、情報生物学、プロテオーム、ゲノム解析、構造生物学  
主な国外講演者：

I. Bertini (Italy), C. Branden (Sweden), S. Brenner (USA), S. K. Burley (USA), I. Campbell (UK), A. Edwards (Canada), J. Feigon (USA), U. Heinemann (Germany), W. Hendrickson (USA), M. Ikura (Canada), R. Kaptein (The Netherlands), S.-H. Kim (USA),

E. Laue (UK), O. Lichtarge (USA), J. Markley (USA), G. Montelione (USA), D. Moras (France), J. Moulton (USA), K. Nagai (UK), J. Norvell (USA), D. Rhodes (UK), C. Sander (USA), T. Terwilliger (USA), J. Thornton (UK), G. Varani (UK), G. Wagner (USA), P. E. Wright (USA), K. Wüthrich (Switzerland)

参加費：予 約40,000円 (学生25,000円)

予約外45,000円 (学生30,000円)

発表申込締切：2000年9月7日 (木)

要旨集原稿締切：2000年9月7日 (木)

参加予約申込締切：2000年9月7日 (木)

発表および参加予約申込方法：WWWにて。

WWW が利用できない場合は、申込方法を送付しますので、E-mail (info@icsg2000.riken.go.jp) 郵便または Fax にてご請求下さい。

連絡先：

〒351-0198 和光市広沢 2-1

理化学研究所 ゲノム科学総合研究センター

タンパク質構造・機能研究グループ

構造ゲノム科学国際会議 組織委員長 西村 善文

Tel：(048) 462-1111 (内5331/3661)、

Fax：(048) 467-9785

E-mail：icsg@icsg2000.riken.go.jp

URL：http://icsg2000.riken.go.jp

## ○ 岡崎国立共同研究機構統合バイオサイエンスセンター教授公募

本センターは、分子科学研究所、基礎生物学研究所および生理学研究所が共同してバイオサイエンスの最先端の基礎的研究を展開することを目的とする本機構の共通研究施設で、上記いずれかの研究所と連携を密にしつつ研究を進めるものである。

本公募では、生物の発生・分化・再生のメカニズムを分子レベルで解明する研究者を求める。

募 集：時系列生命現象研究領域 教授2名

(各教授は就任後、助手1名および非常勤研究員1名の採用が可能)

公募締切：2000年6月30日 (金) (必着)

提出書類：1. 履歴書 (様式任意)

2. 業績目録 (印刷中を含む)

3. 現在までの研究の概要 (1,500字程度)

4. 就任後の研究計画または研究の抱負 (1,000字程度)

5. 推薦書 (ない場合は照会可能な方の所属・氏名・連絡先を2名まで)

6. 主要論文の別刷、プレプリント (10編以内、各2部)

就任時期：決定後、できる限り早期。

問合せ先：基礎生物学研究所 教授 長濱嘉孝

Tel：(0564) 55-7550

送付先：

〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38番地

岡崎国立共同研究機構 総務部人事課気付

長濱嘉孝教授

Tel：(0564) 55-7122

※「統合バイオサイエンスセンター教授応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付すること。

詳細は <http://www.orion.ac.jp/DOC/Indexj.html> または <http://www.nibb.ac.jp/index.html> をご覧下さい。

新入会用 Web site URL : <http://bunshi.bcasj.or.jp/>

日本分子生物学会 会報

年 3 回刊行

第66号 (2000年 6 月)

発 行 : 日本分子生物学会 庶務幹事

製 作 : 学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所